



日中笹川医学協力プロジェクト

笹川医学奨学金進修生同学会事業

2025 年度事業報告書

笹川医学奨学金進修生同学会

公益財団法人 日中医学協会

目次

1	短期診療技術・技能研修	1
1.1	腹腔鏡研修(黒龍江省)	2
1.2	高血圧予防・治療研修(新疆ウイグル自治区)	5
1.3	呼吸器疾患研修(北京市)	7
1.4	内視鏡研修(遼寧省)	9
1.5	農村医師レベルアップ研修(雲南省)	11
1.6	産婦人科研修(北京市)	13
2	中長期診療技術・技能研修	15
2.1	中医学研修(黒龍江省)	16
2.2	高血圧予防・治療研修(新疆ウイグル自治区)	17
2.3	高齢者介護研修(四川省)	18
2.4	歯科研修(吉林省)	19
3	地域医療支援活動	20
3.1	黒龍江省中医診断治療医療支援活動	21
3.2	陝西省消化器癌早期診断治療医療支援活動	23
3.3	湖南省腹腔鏡医療支援活動	25
3.4	日本支部健康講座・健康相談会①	27
3.5	日本支部健康講座・健康相談会②	29
4	支部学術会議	32
4.1	東北地区学術交流会	33
4.2	西北・北京地区学術交流会	36
4.3	西南地区学術交流会	40
4.4	華北・華中・華南・安徽・山東・江西地区支部学術交流会	43
4.5	華東・湖北地区学術交流会	48
4.6	日本支部学術交流会	52
5	日中ハイエンド医学フォーラム	56
5.1	「大健康」フォーラム	57
6	第47期研究者結団式	60
6.1	第47期研究者結団式	61
7	<共同研究コース>研究者成果報告会	63
7.1	<共同研究コース>研究者成果報告会	64
8	広報活動	68
8.1	『笹川生通訊』	69

1 短期診療技術・技能研修

1 短期診療技術・技能研修

1.1 腹腔鏡研修(黒龍江省)

期 間	2025年5月10日(土)～11日(日)
会 場	ハルビン市第一医院
実施責任者	李晓陽 ハルビン市第一医院副院長(第8期生)
受講者	外科医師 70 名(黒龍江省)
研修内容	ハルビン市第一医院の講師陣による講義と手術手技指導











講義



手技指導



集合写真

報告: 中国黒龍江省ハルビン市にあるハルビン市第一医院において、黒龍江省内の二級病院に勤務する医師 70 名を対象に、腹腔鏡技能研修が実施された。研修は、第 8 期笹川奨学生であるハルビン市第一医院の李曉陽教授が実施責任者を務め、同院の全面的な協力のもと、参加者にとってニーズの高いテーマを取り上げた講義に加え、腹腔鏡トレーニングモデルを用いた基本手技訓練や腹腔鏡手術の実演など、非常に充実した内容で行われた。講義および手術実演の内容は以下の通り。

【講義内容】

1. 腹腔鏡下における縫合・結紮技術(李曉陽教授)
2. 医源性胆道損傷の修復技術(徐力善教授)
3. 内輪アプローチによるヘルニア嚢モビライゼーションの TAPP 術(禹宏教授)
4. 寒冷地における減量・代謝外科の課題と考察(徐東升教授)
5. 胆嚢結石と総胆管結石を併発した症例の治療戦略(張志強教授)
6. 中国における血管外科の発展と当院の現状(周偉忠教授)
7. 未来はすでに到来: 3D 内視鏡と無気腹技術による甲状腺外科の高精度化・低侵襲化の推進(齊明教授)
8. NCCN2024: 直腸癌外科治療の最新動向～低侵襲技術と周術期管理～(鄭宇教授)
9. 胃食道逆流症および食道裂孔ヘルニアの診断と治療(崔磊医師)

【手術実演】

1. 下肢静脈瘤に対するレーザーを用いた低侵襲血管内閉鎖術(周偉忠教授チーム)
2. 腹腔鏡下スリーブ胃切除術(徐東升教授チーム)
3. 無気腹・経腋窩内視鏡下甲状腺切除術(齊明教授チーム)
4. 腹腔鏡下胆嚢摘出術(張志強教授チーム)
5. 腹腔鏡下肝部分切除術(李曉陽・張志強教授チーム)
6. 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復・胃底部噴門形成術(崔磊チーム)
7. 腹腔鏡下胆嚢摘出術および総胆管切開・結石除去術(王勤運チーム)

1 短期診療技術・技能研修

1.2 高血圧予防・治療研修(新疆ウイグル自治区)

期 間	2025年5月27日(火)～28日(水)
会 場	新疆ウイグル自治区人民医院高血圧センター
実施責任者	李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长・高血圧センター長、 新疆高血圧研究所所長(第7期、第40期生)
受講者	内科医師 51 名(新疆ウイグル自治区)
研修内容	新疆ウイグル自治区人民医院高血圧センターの講師陣による講義
  講義様子   カンファレンス	

報告：地方医療機関における睡眠呼吸疾患の診療能力をさらに向上させるとともに、新疆地域における高血圧・心血管疾患および睡眠呼吸障害の診療技術の規範化・標準化を推進し、当該分野の最新動向を共有することを目的として、「第六回睡眠呼吸疾患研修会」が2025年5月27日から2日間、新疆ウイグル自治区人民病院高血圧センターにおいてウルムチで開催された。

本研修会は、医療従事者が相互に交流し、知識と技術の向上を図るための学術交流プラットフォームとして企画された。自治区人民病院高血圧センターの専門チームが講義内容を綿密に準備し、伊犁、喀什、和田を含む14の地州市から計51名の医療従事者が参加した。

参加者は、体系的かつ専門的な研修を通じて、睡眠呼吸疾患における「早期スクリーニング・精密診断・標準化治療」に関する知識と技能の習得を目指した。

新疆地域は広大であり、医療資源の分布に不均衡が見られることから、本研修では高血圧専門連合のネットワークを活用し、地域特性を踏まえた教育内容が提供された。

本研修により、参加者の睡眠呼吸疾患に対する総合的な診療能力が強化され、地域末端への質の高い医療資源の普及に寄与した。

1 短期診療技術・技能研修

1.3 呼吸器疾患研修(北京市)

期 間	2025年7月11日(金)～12日(土)
会 場	中日友好医院(北京市)
実施責任者	楊 潔 中日友好医院
受 講 者	医師 150 名(河北省)
研 修 内 容	中日友好医院の講師陣による講義



講義様子



研修会開講式



研修会修了式

報告: 地方医療従事者の呼吸器慢性疾患に対する診療能力の向上を目的として、2025 年 7 月 11 日から 12 日にかけて、中日友好病院において「呼吸器慢性疾患研修会」が開催された。河北省内の各県区から約 150 名の医療従事者が参加し、呼吸器疾患診療に関する知識と技術の向上に取り組んだ。

本研修は、地方医療現場の実際のニーズに合わせた内容で構成され、充実したカリキュラムと高い実践性を特徴としている。中日友好病院呼吸器内科の専門家が講師を務め、以下のテーマについて講義が行われた。

1. 周術期管理
2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する中医学の応用
3. 肺塞栓症
4. COPD の診療と管理
5. 呼吸器感染症
6. 呼吸リハビリテーション
7. 喘息の標準管理
8. 肺機能検査
9. 微生物検査

講義では、各疾患の病態生理や発症メカニズム、診断の考え方から治療戦略、長期管理に至るまでを体系的に解説するとともに、実際の症例を用いた検討を通じて、臨床現場で活用できる知識と経験が共有された。

今回の研修を通じて、受講者の呼吸器慢性疾患に対する総合的な診断・治療および管理能力の向上が図られ、地方医療機関における呼吸器慢性疾患の予防・診療の標準化を推進するための基盤が一層強化された。

今後も同学会は継続的に研修事業を推進し、より多くの地域の医療従事者を対象とした実践的かつ専門的な教育機会を提供していく。これにより、地域医療の基盤強化を図るとともに、全国の地方医療機関における呼吸器慢性疾患の予防・診療水準の向上と国民の健康増進に貢献していくことが期待される。

1 短期診療技術・技能研修

1.4 内視鏡研修(遼寧省)

期 間	2025年8月17日(日)～18日(月)
会 場	中国医科大学附属盛京医院
実施責任者	趙 群 中国医科大学附属盛京医院教授、 中国医師協会副会長(第10期生)
受講者	外科医師 20 名(遼寧省)
研修内容	中国医科大学附属盛京医院の講師陣による講義と手技指導



記念写真



講義様子

報告: 2025 年 8 月 17 日～18 日、中国医科大学附属盛京病院において「第 3 回消化器内視鏡実用技能研修会」が開催された。

本研修会は、消化器内視鏡診療に携わる医師の知識・技能向上を目的として開催され、理論講義・手術見学・動物実習の 3 部構成で実施された。

理論講義では、盛京病院の 7 名の専門家が講師を務め、消化器内視鏡診療に関する幅広いテーマについて講義を行った。

基礎コース

1. 消化管出血に対する内視鏡緊急止血術
2. 大腸 EMR(内視鏡的粘膜切除術)の実践的ポイント
3. 早期胃癌の内視鏡診断フロー
4. 慢性胃炎の内視鏡診断

上級コース

1. 超音波小型プローブの臨床応用
2. ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)における主要器具の選択と使用法

いずれの講義も受講者および指導教員から高い関心を集め、活発な意見交換が行われた。

手術見学セッションでは、受講者は盛京病院の内視鏡センターにおける日常診療の様子や各種内視鏡治療手技を見学し、実際の臨床現場に触れる貴重な機会を得た。

動物実習では、生体豚を用いた実践的なトレーニングが行われ、盛京病院の専門講師陣によるマンツーマンに近い指導のもと、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の手技を習得した。特に、早期消化管がんに対する病変の切除・剥離技術に重点を置いた実習が行われ、受講者は内視鏡治療技術への理解を深めるとともに、手技の習熟度を大きく向上させた。

研修終了後には、講師陣および受講者全員による記念撮影が行われた。

受講者からは、主催者ならびに運営関係者に対して感謝の意が述べられるとともに、本研修が極めて有意義で貴重な学習機会であったとの声が寄せられた。

今後も同様の研修会への参加を通じて、さらなる知識と技術の向上を目指したいとの期待が示された。

1 短期診療技術・技能研修

1.5 農村医師レベルアップ研修(雲南省)

期 間	2025年9月5日(金)～7日(日)
会 場	雲南省徳宏州
実施責任者	李 松 昆明医科大学教授(第8期生)
受講者	医師 150 名(雲南省徳宏州)
研修内容	昆明医科大学の講師陣による講義と実地指導



講義様子

報告:2025 年 9 月 5 日～7 日、昆明医科大学附属徳宏病院において、「第 2 回総合診療医研修会」が開催された。

本研修会は、辺境地域および少数民族地域における総合診療医の専門性と臨床実践能力のさらなる向上を図るとともに、最新の医学的コンセンサスや診療ガイドラインの普及と実践的活用を促進することを目的として開催された。

また、徳宏州および周辺地域の多民族・辺境地域という地域特性や医療ニーズを踏まえ、「健康雲南」および「健康徳宏」の実現に向けた地域医療体制の強化に貢献することを目指した。

研修会には、国内および雲南省内の著名な専門家・指導者が多数招聘され、講演および指導を行った。また、徳宏州各県・市の医療機関から 150 名の総合診療分野の医療従事者が参加し、活発な学術交流が行われた。

学術プログラム

1. AI 医療時代における総合診療医の機会と課題
2. 高齢者における多疾患併存の評価と地域包括管理
3. 総合診療医の視点からみた心理療法
4. 消化器疾患の標準的診断・治療
5. 総合診療医に求められる臨床思考の構築
6. 内分泌・代謝疾患の総合診療的マネジメント

専門家は、豊富な臨床経験と最新の研究成果を踏まえ、実践的かつ分かりやすい解説を行い、参加者の理解を深めた。

また、地域医療の標準化を推進するため、以下の最新ガイドラインについて詳細な解説が行われた。

『三高（高血圧・高血糖・高脂血症）の統合管理に関する中国専門家コンセンサス』

『地方版慢性閉塞性肺疾患診療ガイドライン』

『2025 年地方高血圧診療ガイドライン』

さらに、徳宏州の多民族・辺境地域という特性を反映し、以下の特色ある講演が実施された。

「サラセミア（地中海貧血）の疫学と予防・管理」

「タイ族医学・タイ族薬学の特色ある診療と治療」

これらの内容は地域医療の実情に相応しいもので、受講者から高い関心と評価を集めた。

本研修会は、総合診療医の専門知識と臨床能力の向上を促進するとともに、地域医療の質の向上と診療の標準化に寄与する有意義な学術交流の場となった。

今後も継続的な研修と交流を通じて、辺境地域および少数民族地域における医療サービスの充実と住民の健康増進に貢献していくことが期待される。

1 短期診療技術・技能研修

1.6 産婦人科研修(北京市)

期 間	2026年1月12日(月)～13日(火)
会 場	北京協和医院(北京市)
実施責任者	孫大為 北京協和医院産婦人科教授(第10期生)
受講者	医師24名(内モンゴル自治区、吉林省、河南省、河北省、江蘇省、湖北省)
研修内容	北京協和医院産婦人科の講師陣による講義と手術手技指導
 講義  記念写真	
報告:2026年1月12日～13日、北京協和医院産婦人科において「産婦人科実用技術標準化研修会」を開催し、地方医療機関から24名の医師が参加した。 その目的は以下の通り。 ● 中国における地域医療を担う産婦人科医療従事者の臨床実践能力の向上 ● 都市部・農村部および医療機関間の診療レベル格差の縮小 ● 産婦人科診療の標準化・均質化の推進 本研修は、地域医療現場の実際のニーズに重点を置き、「標準化」「実践性」「課題対応力」を基本方針として実施された。	

研修プログラムは、臨床現場の実情に即した包括的な内容で構成され、産婦人科診療の主要分野を幅広く網羅するとともに、最新の理論知識と実践的な技術指導を組み合わせたものとなった。

婦人科診療の主要領域について、最新の知見と標準化診療の要点が解説された。

1. 婦人科炎症性疾患の標準的診断・治療
 病因鑑別、薬物療法の原則、再発予防と管理
2. 子宮筋腫の分類診断と個別化治療戦略
 手術適応の判断、治療選択の基準
3. 女性骨盤底機能障害の診療
 早期スクリーニング、リハビリ介入、外科的治療の要点
4. 子宮頸がん検診の最新技術と判定基準
 検査技術の動向、前がん病変への対応

生殖医療については、臨床上リスクの高い症例への対応力向上を目的とした重点的な講義が行われた。

1. 生殖補助医療技術の適応評価、
2. 診療ガイドラインにもとづく診療プロセス
3. 合併症管理
4. 瘢痕妊娠の早期発見、リスク評価、安全な治療計画の立案

産科分野では、産科診療の基本指針から高度な判断技術まで幅広く取り上げられた。

1. 妊娠期における継続的な妊婦健診管理
2. 入院時評価
3. 高リスク妊娠の早期スクリーニング
4. 胎児心拍モニタリング波形の判読技術
5. 異常所見出現時の緊急対応

理論で学んだ内容を臨床技術として定着させるため、1月13日、実技研修が実施された。

本研修は、理論と実技を効果的に融合させることで、参加医師の専門知識の更新を図るとともに、臨床技術および標準化診療に対する理解を大きく向上させた。また、地域医療の現場で日常的に直面する課題の解決にも寄与した。

参加者からは、「内容が実践的で臨床現場に直結しており、今後の診療活動に大いに役立つ」との高い評価が寄せられた。今回の研修の成功は、地域における産婦人科医療人材の育成を推進するとともに、同国の産婦人科医療サービスの標準化および均質化のさらなる向上に貢献するものとなった。

2 中長期診療技術・技能研修

2 中長期診療技術・技能研修

2.1 中医学研修(黒龍江省)

期 間	2025年7月～2025年12月
場 所	黒龍江中医薬科学研究院(黒龍江省ハルビン市)
実施責任者	李顕筑 黒龍江中医薬科学研究院教授(第8期生)
受講者	唐秋菊 綏芬河市中医院医師 李春穎 黒龍江省呼蘭区中医院医師
研修内容	中医学の臨床研修



直接指導

2 中長期診療技術・技能研修

2.2 高血圧予防・治療研修(新疆ウイグル自治区)

期 間	2025年7月～2025年12月
場 所	新疆ウイグル自治区人民医院
実施責任者	李南方 新疆ウイグル自治区人民医院高血压センター長、 新疆高血压研究所所长(第7期生・第40期生<共同研究コース>)
受講者	古孜麗努爾・馬木 青海紅十字医院医師 楊 艷 博州人民医院医師
研修内容	高血圧予防・治療の臨床研修



直接指導



李南方先生と研修生たち

2 中長期診療技術・技能研修

2.3 高齢者介護研修(四川省)

期 間	2025年7月～2025年12月
場 所	四川大学華西医院(四川省成都市)
実施責任者	胡秀英 四川大学華西医院華西護理創新研究センター主任、教授 (第18期生、第41期生＜共同研究コース＞)
受講者	王傑艷 深圳市龍華区人民医院看護師
研修内容	高齢者介護の臨床研修



直接指導



修了式

2 中長期診療技術・技能研修

2.4 齒科研修(吉林省)

期 間	2025年7月～2025年12月
場 所	吉林大学口腔医院(吉林省長春市)
実施責任者	胡 敏 吉林大学口腔医院矯正科教授(第 25 期生)
受 講 者	王晶 吉林省安図県人民医院口腔科医師
研 修 内 容	齒科予防・治療の臨床研修
 直接指導	

3 地域医療支援活動

3 地域医療支援活動

3.1 黒龍江省中医診断治療医療支援活動

期 間	2025年7月26日(土)～27日(日)
会 場	慶安県人民医院(黒龍江省綏化市慶安県)
実 施 責 任 者	李顕筑 黒龍江省中西医结合研究所教授(第8期生)
参 加 者	950名(慶安県周辺医院医師・看護師、現地患者)
活 動 内 容	黒龍江省中医薬大学の講師陣が、現地の医師・看護師に対して講義および実地指導を行うとともに、無料の診療ならびに健康相談・指導を実施した。



現地活動様子

報告: 今回の活動では、無料診療の実施に加え、学術講演や技術交流なども行われた。

慶安県人民病院および周辺地域の医療機関に勤務する医療従事者を対象として、3つのテーマによる学術講演を開催した。

王丹教授

「慢性腎臓病に対する中西医结合管理」をテーマに講演を行い、慢性腎臓病の早期発見・早期介入に関する日本の先進的な知見を紹介するとともに、地域医療機関に適したスクリーニング体制や管理手法について解説した。

関立峰教授

関立峰教授

リウマチ・免疫疾患の最新の診療動向について講演し、地域医療の現場における鑑別診断のポイントや標準的な治療方法について、実際の臨床経験を交えながら紹介した。

講演を受講した慶安県人民病院内科の責任者は、「今回の講演内容は非常に実践的であり、地域医療に携わる医師にとって、理論的知識の向上だけでなく、日常診療に直結する有益な内容であった」と感想を述べた。

技術交流・実技指導

専門家が各診療科を訪問し、病棟での回診やベッドサイドでの実技指導を実施した。

程為平教授

鍼灸科において顔面神経麻痺に対する鍼治療の実技指導を行った。

張偉教授

小児科において小児呼吸器疾患の聴診技術を指導した。

李顕筑教授

内分泌疾患を対象とした標準的な診療プロセスについて実践的な指導を行った。

2 日間にわたる活動期間中、専門家チームは延べ 800 名以上の患者を診療するとともに、学術講演を実施し、150 名以上の地域医療従事者を対象とした研修を行った。

また、30 例を超える難治症例について合同カンファレンスおよび共同診療を実施し、地域医療の診療能力向上と医療技術の普及に貢献した。

3 地域医療支援活動

3.2 陝西省消化器癌早期診断治療医療支援活動

実 施 日	2025年11月25日(火)～26(水)
場 所	呉起県医院(陝西省延安市呉起県)
実施責任者	張 軍 西安交通大学第二附属医院教授(第11期生)
参 加 者	100名(呉起県医院消化器科医師・看護師、現地患者)
活 動 内 容	西安交通大学第二附属医院の講師陣が現地医師・看護師への講義と実地指導を行うとともに、無料の診療を行った。



現地診療及び指導



学術交流

報告: 今回の支援活動は、臨床回診と学術講演の二部構成で実施された。

臨床回診

車向明教授

外科病棟を巡回し、消化器がんに関する症例について臨床指導を行った。

王鈞教授

内視鏡室において、機器操作の実演を交えながら消化器疾患の内視鏡診断技術について指導した。

張軍教授と尹曉然教授

消化器内科で難治症例の合同診療を実施し、複雑な症例に対する専門的な診療方針を示した。

4名の専門家は、1日を通じて延べ100名以上の患者に対する診療を行った。

学術講演

車向明教授

「胃がん手術における消化管再建のコンセンサスと実践」とテーマにし、講演し、胃がん外科治療に関する最新の知見と豊富な臨床経験を紹介した。

王鈞教授

「慢性便秘の長期管理」をテーマに、地域医療の現場に即した視点から、慢性便秘の病態、診断および標準的な治療方針について解説した。

尹曉然教授

「がん患者のライフサイクル全体を通じたQOL(生活の質)の向上」をテーマに講演し、がん治療における身体面と精神面の双方を重視した包括的医療の重要性について説明した。

張軍教授

本学術講演を総括し、講演内容の要点を整理するとともに、参加者からの質問に回答し、理論と臨床実践を結び付けるための理解を深めた。

今回の活動は、臨床回診、実技指導および学術講演を組み合わせた内容とし、地域医療現場が抱える課題の解決に寄与するとともに、消化器がん診療に関する先進的な知見と技術の普及を図った。

今回の医療支援活動は、呉起県人民病院における質の高い学術交流の機会を創出するとともに、地域における消化器疾患、特に消化器がんの早期発見・早期治療体制の充実と診療能力の向上に大きく寄与するものとなった。

3 地域医療支援活動

3.3 湖南省腹腔鏡医療支援活動

実 施 日	2025年11月29日(土)～30日(日)
場 所	婁底市第一人民医院(湖南省婁底市)
実施責任者	李永国 中南大学湘雅二医院教授(第1期生)
参 加 者	30名(婁底市第一人民医院、第二人民医院、中心医院、婁星区人民医院およびハルビン市第二医院の医師)
活 動 内 容	中南大学湘雅二医院の講師陣が講義と実地指導を行った。
会場様子 講義 現地指導	
報告: 本活動では、まず肝・胆・膵疾患の診断・治療における最新の知見や新たな治療技術、臨床上の課題をテーマに、各分野の専門家が講演を行った。 講演: 劉威教授 「胆膵疾患に対する内視鏡診療体制の構築」 鄒恒教授 「医源性胆管損傷の予防と治療」	

楊鑫教授

「中・進行期肝がんに対するコンバージョン治療の戦略と思考」

周江蛟教授

「膵臓手術における合併症の予防と対策」

それぞれ豊富な臨床経験を交えながら分かりやすく解説した。

手術指導・手術見学

専門家は ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)を用いた低侵襲治療の実演を通じて、高度な手術手技やチーム医療を紹介し、参加者に最先端の手術技術を間近で学ぶ機会を提供した。

回診

李永国教授、周江蛟教授および劉亜麗看護師長は、婁底市第一人民医院肝胆外科で教育回診を実施するとともに、難治症例に関する症例カンファレンスを行った。参加者が日常診療で直面する難治症例について積極的に質問を行い、専門家との活発な意見交換や症例検討が行われた。

会場は終始活発な学術討論に包まれ、参加者は地域医療機関における ERCP の普及と発展に大きな期待を寄せるとともに、今後の診療体制の充実に向けて理解を深めた。

今回の活動では、専門家による質の高い講義と実践的な技術指導、活発な学術交流を通じて、国際的な最新の医学知見と地域医療の実情を結び付けることができ、地域における肝胆膵外科診療の質の向上を促進するとともに、地域医療連携および段階的診療体制の充実・発展を推進する上で、大きな意義を有するものとなった。

3 地域医療支援活動

3.4 日本支部健康講座・健康相談会①

期 間	2025年11月23日(日)
会 場	老人ホーム 一笑苑戸田(埼玉県戸田市)
実 施 責 任 者	池田マリア 湘南藤沢徳洲会病院看護師(第13期生)
参 加 者	60名(中国残留邦人とその家族、在留中国人他)
活 動 内 容	王少麗東京薬科大学附属社会医療研究所中医診断学教授(第15期生)の講演「中国伝統医学養生観と日常生活への応用」の後、中国語による健康相談を行った。



会場様子



第1部:健康講演会 講演:王少麗先生



第 2 部: 個別健康相談

報告: 中国残留日本人孤児二世およびその家族を対象とした「健康講演会・個別健康相談会」を開催した。

本相談会は、笹川医学奨学金進修生同学会(笹川同学会)日本支部と、中国語による介護サービスを提供する一笑苑グループとの共催により、埼玉県戸田市の介護施設「一笑苑戸田」において開催され、施設利用者を中心に約 60 名が参加した。

第 1 部では、笹川同学会日本支部副会長の王少麗先生が「中国伝統医学の養生観と日常生活への応用」をテーマに講演を行った。講演では、加齢に伴う心身の変化との向き合い方や、老いを前向きに受け入れながら健康的な生活を送るための考え方について、中国語で分かりやすく解説した。参加者は熱心に耳を傾け、講演終了後には多くの質問が寄せられるなど、高い関心が示された。

第 2 部では、笹川同学会日本支部に所属する医療従事者が、内科、皮膚科、漢方、神経内科、眼科、看護、介護など、それぞれの専門分野において個別健康相談を実施した。参加者は、日頃の診療や治療に関する疑問や健康上の不安について母語である中国語で相談することができ、専門家から一人ひとりの状況に応じた丁寧な助言を受けた。

参加者からは、「中国語で安心して相談できた」「専門家から直接アドバイスを受けることができ、大変参考になった」などの声が寄せられ、本相談会は参加者の健康維持・増進と安心した生活を支える有意義な機会となった。

3 地域医療支援活動

3.5 日本支部健康講座・健康相談会②

期 間	2026年1月18日(日)
会 場	アスパia明石(兵庫県明石市)
実 施 責 任 者	呉小玉 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科教授(第21期生)
参 加 者	70名(中国残留邦人とその家族、在留中国人他)
活 動 内 容	呉小玉氏の講演「認知症とフレイルを防ぐ中国伝統医学の知識と方法」の後、兵庫県まち保ボランティア看護師による身体測定と、同学会会員が中国語による健康相談を行った。



会場様子



講演、気功体操



血圧測定



健康相談



神戸新聞明石版 2026 年 1 月 22 日朝刊に掲載されました。

報告：笹川医学奨学金進修生同学会（笹川同学会）日本支部は、兵庫県明石市の生涯学習センター「ウィズあかし」において、中国残留日本人孤児二世およびその家族を対象とした「健康講演会・個別健康相談会」を開催した。

本事業は、明石市福祉事務所から「中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会」を通じて、中国語による健康講座の開催依頼を受けたことを契機として開始されたものである。2017 年 2 月の第 1 回開催以来、毎年継続して実施しており、中国残留日本人孤児二世やその家族の健康増進と地域における支援の充実を目的としている。

今回は、「中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会」が運営する明石日本語教室の受講者をはじめ、約 70 名が参加した。

第 1 部の健康講演会では、笹川同学会日本支部副会長で香川県立保健医療大学教授の呉小玉先生が、「認知症とフレイルを予防する中国伝統医学の知識と実践」をテーマに、中国語で講演を行った。講演では、認知症やフレイルの予防に役立つ中国伝統医学の考え方や日常生活に取り入れられる健康法について分かりやすく解説するとともに、認知症予防に効果が期待される気功体操を実演した。参加者も実際に体を動かしながら体験し、終始和やかな雰囲気の中で理解を深めた。

第 2 部では、兵庫県看護協会東播支部の協力のもと、血圧、骨密度および体組成の測定などの健康チェックを実施した。続いて、内科、生活習慣、服薬、介護・看護などの分野ごとに相談コーナーを設け、笹川同学会日本支部に所属する医療従事者が参加者一人ひとりの相談に丁寧に対応した。

中高年期に帰国した中国残留日本人孤児やその家族の中には、言語や生活習慣の違いから医療機関の受診に不安や困難を感じる人も少なくない。本相談会では、中国語で安心して相談できる環境を提供することで、参加者の健康に関する不安の軽減や適切な医療・介護サービスへの理解促進に寄与した。参加者からは、「中国語で安心して相談することができた」「普段は病院で聞きにくいことについて理解を深めることができた」といった感想が寄せられ、本事業の有用性がうかがえた。

4 支部学術会議

4 支部学術会議

4.1 東北地区学術交流会

開催日	2025年6月14日(土)
場所	大連日光飯店(遼寧省大連市)
実施責任者	許 順 中国医科大学附属第一医院胸外科教授(第15期生)
参加者	43名 遼寧省、黒龍江省、吉林省の笹川同学会会員
テーマ	中医学に基づく養生と健康管理
プログラム	1) 趙樹華 吉林大学中日聯誼医院教授(第4期生) 「中医養生学」 2) 李顯筑 黒龍江省中西医结合研究所教授(第8期生) 「中医学的体質論と未病の治療」 3) 王 寧 遼寧中医薬大学附属第二医院教授(第31期生) 「中医学の特色ある治療法を用いたがん疾患への応用」 4) 金京春 延辺大学附属医院リウマチ免疫学科教授 (第40期生<共同研究コース>) 「リウマチ・免疫疾患の中西医结合治療」 会員情報交流



趙樹華先生



李顯筑先生



王 寧先生



金京春先生



集合写真

報告:学術交流会は、許順副理事長の司会のもと、「中医学に基づく養生と健康管理」をテーマに開催され、笹川医学奨学金進修生同学会の会員4名が講演を行った。

中国では、中医学に基づく養生と健康管理は、単なる疾病予防にとどまらず、心身の調和を図り、自然との共生を重視する総合的な健康管理の考え方として広く実践されている。本交流会では、中医学の理論や臨床応用、さらに中西医结合医療の実践について、各講師がそれぞれの専門分野から最新の知見と臨床経験を紹介した。

趙樹華教授は、中医養生学について、中医学の理論に基づき、心身のバランスを整え、健康の維持・増進および疾病予防を目的とした実践的な学問であると説明した。また、吉林大学中日聯誼医院における養生医療の取り組みを紹介するとともに、代表的な中薬材の特徴や臨床での活用方法について解説した。

李顯筑教授は、『山海經』『周易』『黄帝内經』など中国古典にみられる思想と中医学の形成・発展との関係を概説したうえで、伝統理論に現代の臨床研究成果を取り入れた中医学による慢性疾患および未病治療について紹介した。また、中医薬産業の発展にも言及し、海南省海花島に整備された中医薬・健康養生をテーマとする施設について説明した。

王寧教授は、中医学の弁証論治に基づく薬物療法と鍼灸療法を組み合わせた、がんに対する総合的な治療について紹介した。特に、督脈に沿って施灸を行う「督脈灸」を取り上げ、がん治療における補完療法の一つとして期待される効果や臨床応用について解説した。

金京春教授は、リウマチ・免疫疾患の治療において、西洋医学による炎症や症状のコントロールと、中医学による体質改善を組み合わせることで、より包括的かつ持続的な治療効果が期待できることを説明した。また、延辺大学附属医院における中西医结合治療の実践例を紹介し、その有効性と臨床的意義について報告した。

笹川医学奖学金委员会办公室
地 址：北京市海淀区西直门北大街新康里 101 号
西峰公寓 C 座 0248
联系电话：010-62256266 15901208067
邮 箱：sc1000@vip.163.com
网 址：https://www.sskw.net

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

笹川医学奖学金同学会东北地区分会 中医养生健康保健

主办单位：笹川医学奖学金委员会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金同学会东北地区分会
2025 年 6 月 14 日

会议时间	2025 年 6 月 14 日（周六）		
会议地点	大连日航饭店（5 层 明苑 C 厅）		
会议安排	6 月 14 日	14:00	签到
	6 月 14 日	14:30—18:00	学术研讨会
	6 月 14 日	18:00	晚宴

主题：中医养生健康保健

会场主持人 许顺 教授（笹川 15 期）
笹川医学奖学金同学会 副理事长

会议议程

14:00-14:30	签到
14:30-14:35	致辞 赵群 笹川医学奖学金同学会 理事长（笹川 10 期）
14:35-14:40	致辞 冈田光子 日中医学协会 事务局长

14:40-15:20	题目：中医养生学 赵树华 教授（笹川 4 期） 吉林大学中日联谊医院	
15:20-16:00	题目：中医体质学说与治未病 李显斌 教授（笹川 8 期） 黑龙江省中西医结合研究所	
16:00-16:40	题目：中医特色疗法在肿瘤疾病中应用 王宁 教授（笹川 31 期） 辽宁中医药大学附属第二医院	
16:40-17:20	题目：中西医结合治疗风湿免疫病 金京春 教授（笹川 40 期） 延边大学附属医院	
17:20-17:30	总结 许顺 教授（笹川 15 期） 笹川医学奖学金同学会 副理事长	
17:30-17:40	合影	
18:00-19:30	晚宴	

4 支部学術会議

4.2 西北・北京地区学術交流会

開催日	2025年6月28日(土)
場所	湖濱国際大酒店(山西省太原市)
実施責任者	李国棟 西安交通大学外国語学院日本語科准教授(第16期生)
参加者	51名 山西省、陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区、北京市の笹川同学会会員
テーマ	老年医学
プログラム	1) 李嘉君 一般社団法人 M&W 国際人材教育機構理事、株式会社 IKO 主任ケアマネジャー 「日本の介護保険制度の紹介」 2) 周紅艷 西安交通大学第一附属医院副主任看護師 「ホリスティックな視点からの高齢者の健康管理」 3) 銭 力 山西医科大学第一医院教授 「高齢者における多病併存とポリファーマシーの管理」 4) 李南方 新疆ウイグル自治区人民医院高血压センター長、 新疆高血压研究所所長(第7期生・第40期生<共同研究コース>) 「閉塞性睡眠時無呼吸症候群に起因する高血压と合併症への対策」 会員情報交流
 李嘉君氏	



周紅艷先生



錢 力先生



李南方先生



李 莉先生



集合写真

報告:学術交流会は、李国棟理事(第16期笹川生)の司会のもと、「老年医学」をテーマに開催され、3題の招待講演と2題の笹川医学奨学金進修生同学会(笹川同学会)会員による講演が行われた。

日中医学協会は、笹川同学会からの要請を受け、日本側講師として、一般社団法人M&W国際人材教育機構理事であり、株式会社IKO主任ケアマネジャーの李嘉君氏を派遣した。

また、開会に先立ち、司会者より、2025 年 6 月に講演者である李莉氏(第 44 期笹川生)が American Academy of Nursing(AAN)のフェロー(Fellow)に選出されたことが紹介された。同フェローは、看護教育、臨床実践および研究分野において顕著な業績を挙げた看護専門職に授与される国際的に権威ある称号であり、会場から大きな祝福が寄せられた。

李嘉君氏

日本の介護保険制度の創設の経緯、制度の仕組みおよび提供される介護サービスの内容について分かりやすく解説した。また、医療保険制度や地域包括ケアシステムについて、その制度設計や運用の現状を紹介するとともに、介護付き有料老人ホーム、通所介護(デイサービス)、居宅介護支援、福祉用具貸与など、日本で提供されている多様な介護サービスについて具体例を交えながら説明した。

周紅艶先生

高齢者の健康管理においては、身体的側面だけでなく、心理的、社会的、環境的および精神的側面を含めた全人的なケアを重視するホリスティック・アプローチが重要であると述べた。生活習慣病などを例に挙げながら、栄養管理、運動、睡眠管理に加え、ストレス、不安、孤独感への対応や社会とのつながりを維持することの重要性について説明した。

銭力教授

高齢者では複数の慢性疾患を同時に有する「多病併存」が一般的であり、それに伴うポリファーマシー(多剤併用)の適正管理が重要な課題であると指摘した。講演では、ポリファーマシーの定義や評価方法を解説するとともに、包括的な高齢者機能評価、処方内容の定期的な見直し(減薬・適正化)、さらに医師、薬剤師、看護師など多職種による連携の重要性について紹介した。

李南方教授

閉塞性睡眠時無呼吸症候群の病態や原因、代表的な症状について解説するとともに、治療の遅れが高血圧をはじめとする心血管疾患などの合併症につながる危険性について説明した。また、CPAP(持続陽圧呼吸療法)を中心とした治療に加え、生活習慣の改善や薬物療法について紹介し、アスピリンの活用に関する最新の知見についても報告した。

李莉先生

高齢化の進展に伴い、中国で進められている「付き添い不要病室」の導入について紹介した。山西医科大学第一医院ではモデル事業として、専門の介護スタッフによるケア体制を整備し、患者の安全確保と家族の身体的・精神的負担の軽減を図るとともに、医療サービスの質の向上を目指した取り組みを実施していることが報告された。また、医療と介護の連携を強化した新たな病棟運営モデルとして、その成果と今後の展望について説明した。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街顺源里 101 号
西直门大厦 C 座 1224 室
联系电话：010-62256266 15901208067
邮箱：sc1000@vip.163.com
网址：https://www.sskw.net

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

笹川医学奖学金同学会西北及 北京地区学术研讨会 老年医学

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金同学会西北及北京地区分会
2025 年 6 月 28 日

会议时间：2025 年 6 月 28 日（周六）

会议地点：湖滨国际大酒店（西 2 会议厅）
太原迎泽区青年路 5 号

会议安排：
6 月 28 日 14:00 签到
6 月 28 日 14:30—18:00 学术研讨会
6 月 28 日 18:00 晚宴（晋瑞厅）

会议主题：老年医学

会场主持人：李国栋 教授（笹川 16 期）
笹川医学奖学金同学会 常务理事

会议议程

14:00-14:30 签到

14:30-14:35 致辞 李忠金（笹川 12 期）笹川医学奖学金同学会 秘书长

14:35-14:40 致辞 冈田光子 日中医学协会 事务局长

14:40-15:20 题目：日本医养结合现状
李惠君 教授
一般社団法人 M&W 国际人材教育机构 理事
株式会社 IKO 主任级照护支援专员

15:20-15:50 题目：全周期视角下老年人的健康管理
周红艳 副主任护理师
西安交通大学第一附属医院

15:50-16:20 题目：老年共病多重用药管理
钱力 教授
山西医科大学第一医院

16:20-16:50 题目：阻塞性睡眠呼吸暂停相关性高血压的共病问题及对策
李南方 教授（笹川 7 期）
新疆自治区人民医院

16:50-17:20 题目：老龄化社会下无陪护病房的模式重构与质量提升
李莉 主任护师（笹川 44 期）
山西医科大学第一医院

17:20-17:30 总结
李国栋 教授（笹川 16 期）
笹川医学奖学金同学会 常务理事

17:30-17:40 合影

18:00-19:30 晚宴

4 支部学術会議

4.3 西南地区学術交流会

開催日	2025年7月5日(土)
場所	合川華地王朝大酒店(重慶市)
実施責任者	熊 宇 陸軍軍医大学西南病院准教授(第34期生)
参加者	50名 重慶市、四川省、雲南省、貴州省の笹川同学会会員
テーマ	スマート医療とアクティブヘルス
プログラム	1)李 松 昆明医科大学教授(第8期生) 「医学における人工知能(AI)の応用と発展」 2)胡秀英 四川大学華西病院教授 (第18期生、第41期生<共同研究コース>) 「優雅に時間とともに踊るー老化を遅らせる生活習慣の知恵」 3)傅 栄 四川省人民病院教授(第28期生) 「眼の形成外科」 4)熊 宇 陸軍軍医大学西南病院准教授(第34期生) 「口腔臨床におけるデジタル医療技術の応用」 会員情報交流
	
会場様子	



李松先生



胡秀英先生



傅 荣先生



熊 宇先生

報告：学術交流会は、熊宇常務理事の司会のもと、「スマート医療とアクティブヘルス」をテーマに開催され、笹川同学会の会員 4 名が講演を行った。本交流会では、医療分野における人工知能（AI）やデジタル技術の活用、生活習慣による健康寿命の延伸、ならびに専門領域における最新の臨床技術について、各講師がそれぞれの専門的知見と実践例を交えて報告した。

李松教授は、AI 技術の発展、医療分野における応用、特に口腔医療領域での活用、ならびに今後の課題と展望について体系的に解説した。近年、中国の三級病院において AI 導入が急速に進展していることや、上海交通大学、広東医科大学などで AI 医学院が設立されている現状を紹介し、今後は医療現場における AI の活用がさらに拡大していくとの見通しを示した。

胡秀英教授は、健康寿命の延伸に寄与する生活習慣として、十分な睡眠（7 時間程度）、禁煙・節酒、清潔な生活環境の維持、定期的な健康診断、適度な運動習慣、そして前向きで楽観的な心構えの重要性について紹介した。

傅荣教授は、中国における眼形成外科の発展について、医療技術の進歩および美容医療需要の高まりを背景に急速に発展している現状を説明した。また、二重まぶた形成術、眼瞼下垂修正術、眼袋除去術、内眥開大術など、同院で実施されている代表的な症例を紹介した。

熊宇准教授は、口腔医学の発展における材料技術および加工成形技術の重要性について述べるとともに、最新の口腔修復症例を通じてデジタル医療技術の応用を紹介した。具体的には、CAD/CAM 技術による補綴物の設計・製作、口腔内スキャナーによる印象採得のデジタル化、3D プリンティング技術の活用など、口腔医療の高度化に向けた取り組みが報告された。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大路联建路101号
西直门公寓C座0248
联系电话：010-62256266 15901208067
邮箱：sc1000@vip.163.com
网址：https://www.sskw.net

Supported by

日本財団

THE NIPPON FOUNDATION

笹川医学奖学金同学会西南地区分会

智慧医疗与主动健康

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金同学会西南地区分会

2025年7月5日

会议时间

2025年7月5日（周六）

会议地点

重庆合川华地王朝大酒店（一层 烟雨厅）

会议安排

7月5日 15:00 签到
7月5日 15:30-18:40 学术研讨会
7月5日 18:40 晚宴（二层 嘉陵餐厅及沿江云厅）

会议主题：智慧医疗与主动健康

会场主持人

熊宇 副教授（笹川34期）
笹川医学奖学金同学会 常务理事

会议议程

15:00-15:30 签到

15:30-15:35 致辞 李忠金（笹川12期）笹川医学奖学金同学会 秘书长

15:35-15:40 致辞 冈田光子 日中医学协会 事务局长

15:40-16:20 题目：人工智能（AI）在医学中的应用与发展
李松 教授（笹川8期）
昆明医科大学

16:20-17:00 题目：优越地与时间共舞——赋能教老的生活方式智慧
胡秀英 教授（笹川18期）
四川大学华西医院

17:00-17:40 题目：眼部的整形美容
傅荣 教授（笹川28期）
四川省人民医院

17:40-18:20 题目：数字化医学技术在口腔临床中的应用
熊宇 副教授（笹川34期）
陆军军医大学西南医院

18:20-18:30 总结
熊宇 副教授（笹川34期）
笹川医学奖学金同学会 常务理事

18:30-18:40 合影

18:40-20:00 晚宴

42

4 支部学術会議

4.4 華北・華中・華南・安徽・山東・江西地区支部学術交流会

開催日	2025年10月18日(土)
場所	武漢富力万達嘉華酒店(湖北省武漢市)
実施責任者	劉修恒 武漢大学人民医院教授(第9期生) 孟召偉 天津医科大学総医院核医学科教授 (第30期生、第40期生・45期生＜共同研究コース＞)
参加者	80名 榊井千裕在中国日本国大使館經濟部・領事部一等書記官(祝辞)、佐藤英夫日本財団常務理事(祝辞)、福田英夫日本財団公益事業部長、天津市、湖北省、広東省、安徽省、山東省、江西省の笹川同学会会員他
テーマ	がん総合診療と核医学
プログラム	基調講演: 1)山下俊一 福島県立医科大学理事長特別補佐・副学長 「福島復興と核医学治療への新しい挑戦」 講演者:4名 2)胡龍飛 広州麓鵬製薬有限公司行政副総裁(第19期生) 「血液腫瘍治療における世界初の第4世代共有結合-非共有結合型 BTK 阻害薬の臨床開発と商品化」 3)賈立中 安徽省蕪湖市第一人民医院影像科教授(第29期生) 「肺小結節の画像スクリーニングと低悪性度結節の低侵襲周術期看護」 4)孟召偉 天津医科大学総医院核医学科教授 (第30期生、第40期生・45期生＜共同研究コース＞) 「低・中リスク甲状腺癌に対する核医学治療」 5)胡秀英 四川大学華西医院教授(第18期生、第41期生＜共同研究コース＞) 「がん治療における身体と心のケア:症状コントロールから人生の意味の再構築まで」 会員情報交流



会場様子



(開会挨拶)
趙 群 笹川同学会理事長



(華中地区笹川生代表挨拶)
劉修恒 教授



(祝辞)
榊井 千裕 在中国日本国大使館一等書記官



(祝辞)
佐藤英夫 日本財団常務理事
(尾形日本財団会長祝辞代読)



山下俊一先生



胡龍飛先生



賈立中先生



孟召偉先生



胡秀英先生



集合写真

報告：学術交流会が、湖北省武漢市において開催され、笹川同学会 OB 約 80 名が参加した。

日本からは基調講演者として、福島県立医科大学理事長特別補佐／副学長の山下俊一氏、在中国日本国大使館一等書記官の榊井千裕氏、日本財団常務理事の佐藤英夫氏および福田英夫氏ほか 2 名が現地参加した。また、笹川同学会会員はオンラインにて参加し、活発な交流が行われた。

開会式では、笹川同学会趙群理事長の開会挨拶に続き、当協会岡田光子事務局長および華中地区代表である武漢大学人民医院劉修恒教授（第 9 期生）が挨拶を行った。その後、在中国日本国大使館榊井千裕一等書記官による祝辞、ならびに日本財団佐藤英夫常務理事による尾形武寿会長の祝辞代読が行われた。

許順副理事長の司会進行のもと、「がんの総合診療・核医学」をテーマに、基調講演および笹川同学会会員 4 名による研究報告が行われた。

山下俊一先生

東日本大震災直後から福島県において実施してきた健康管理・放射線防護に関する研究活動を紹介するとともに、福島県立医科大学先端臨床研究センターの取り組みや、「F-REI（福島国際研究教育機構）」構想について説明した。

胡龍飛氏

共有結合型および非共有結合型を併せ持つ第 4 世代 BTK 阻害薬の臨床開発状況と、その事業化および今後の展望について報告した。

賈立中教授

肺小結節の画像診断における評価方法および低悪性度病変に対する低侵襲手術における周術期管理について、臨床経験を交えて報告した。

孟召偉先生

甲状腺癌治療における核医学の最新の国際的動向と臨床応用について紹介した。胡秀英先生は、がん患者を全人的に捉え、身体的治療のみならず心理的・社会的側面を含めた包括的ケアの重要性について述べた。

学術交流会終了後には情報交換会が開催され、参加者間の交流と親睦が一層深まり、有意義な機会となった。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街新源里101号
西直门大厦C座0248
联系电话：010-62256266 15901208067
邮 箱：sc1000@vip.163.com
网 址：https://www.sskw.net

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

笹川医学奖学金同学会华中、华北、华南、 安徽、山东及江西地区学术交流会

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金华中、华南、华北、安徽、山东及江西分会
2025年10月18日

会议时间 2025年10月18日（周六）

会议地点 武汉富力万达嘉华酒店（湖北省武汉市武昌区东湖路105号）

会议安排 10月18日 14:00 签到（三层多功能4厅）
10月18日 14:30-18:20 学术研讨会
10月18日 18:20-20:00 晚宴（一楼美食汇西餐厅）

会议主题：肿瘤的综合诊疗与核医学

会场主持人 许顺 教授（笹川15期）
笹川医学奖学金同学会 副理事长

会议议程

14:00-14:30 签到
14:30-14:35 致辞 赵群 教授（笹川10期）同学会理事长
14:35-14:40 致辞 冈田光子 日中医学协会 事务局长
14:40-14:45 致辞 刘继恒 教授（笹川9期）华中地区代表
14:45-14:50 致辞 桐井千裕 日本国驻华使馆 一等秘书官
14:50-14:55 致辞 佐藤英夫 日本财团 常务理事
14:55-15:00 合影

15:00-16:00 题目：福岛复兴与核医学治疗的新挑战
山下俊一 教授
福岛县立医科大学



16:00-16:30 题目：身心同治的肿瘤照护：从症状控制到生命意义重建
胡秀英 教授（笹川18期）
四川大学华西医院



16:30-17:00 题目：全球首个第四代共价兼非共价 BTKi 在血液肿瘤治疗中的临床开发和商业化
胡龙飞 教授（笹川19期）
广州麓湖制药有限公司



17:00-17:30 题目：肺微小结节的影像筛查和低级别结节微创手术术期的护理
贾立中 教授（笹川29期）
安徽省芜湖市第一人民医院影像科



17:30-18:00 题目：低中危甲状腺癌的核素治疗
孟召伟 教授（笹川30期）
天津医科大学总医院 核医学



18:00-18:20 总结 赵群 教授（笹川10期）同学会 理事长

18:20-20:00 晚宴

4 支部学術会議

4.5 華東・湖北地区学術交流会

開催日	2025年11月15日(土)
場所	武夷山庄(福建省南平市武夷山市)
実施責任者	孫 偉 江蘇省中医院教授(18 期生)
参加者	70名 江蘇省、安徽省、上海市、浙江省、湖北省の笹川同学会会員
テーマ	がんの予防と治療
プログラム	1) 賈立中 安徽省蕪湖市第一人民醫院影像科医師(第 29 期生) 「肺結節のスクリーニング診断と臨床管理の要点」 2) 武 巍 百力司康生物醫藥有限公司教授(第 13 期生) 「最新の抗がん剤 ADC(抗体藥物複合体)」 3) 李 旭 福建医科大学附屬第一醫院胸部外科教授(第 22 期生) 「食道がん治療の新たなコンセプトと枠組み」 4) 錢 俊 浙江省腫瘍醫院大腸外科教授(第 26 期生) 「結直・直腸がんの早期スクリーニング・早期発見・予防・治療」 5) 孫海晨 南京軍區南京總醫院救急醫學科教授(第 26 期生) 「12 年に及ぶ肺がん治療の経験」 6) 孫長博 上海市肺科醫院胸部外科副教授 (第 38 期生・第 40 期生<學位取得コース>・第 44 期生<共同研究コース>) 「終末期肺疾患に焦点を当てる: 肺移植における全プロセス管理の戦略最適化と技術革新」 会員情報交流
 会場様子	



賈立中先生

武 巍先生



李 旭先生

錢 俊先生



孫海晨先生

孫長博先生



集合写真

報告：笹川同学会華東地区支部学術交流会在福建省武夷山市で開催され、笹川同学会会員等約 70 名が参加した。協会事務局もオンラインで参加し、参加者との交流を行った。

開会にあたり、日中医学協会の岡田光子事務局長、福建地区代表の福建省薬品不良反応観測センター李宗氏(第12期生)、華東地区代表の江蘇省中医院孫偉氏(第18期生)が挨拶を行った。

その後、笹川同学会の李忠金秘書長の司会のもと、「がんの予防・治療」をテーマとした学術講演会が開催され、6名の笹川医学奨学金進修生が講演を行った。

賈立中先生

「肺結節のスクリーニング診断と臨床管理の要点」と題し、肺結節の定義、超早期肺がんの概念、画像診断上の特徴、スクリーニング方法などについて体系的に講演した。

武巍先生

「最新の抗がん剤 ADC(抗体薬物複合体)」と題し、ADC の概要、開発の経緯、作用機序、承認・販売されている薬剤及び今後の展望について紹介した。

李旭先生

「食道がん治療の新たなコンセプトと枠組み」と題し、腫瘍研究の全体像を踏まえ、食道がんのスクリーニング、早期発見の手法及び標準的ながん治療モデルについて説明した。

銭俊先生

「結腸・直腸がんの早期スクリーニング・早期発見・予防・治療」と題し、早期スクリーニングの必要性、対象者、検査方法及び予防策について解説した。

孫海晨先生

「12 年間の肺がん治療の経験」と題し、自身の闘病経験をもとに、早期発見から各世代の治療薬による治療経過、現在の化学療法までを紹介した。

孫長博先生

「終末期肺疾患に焦点を当てる—肺移植における全プロセス管理の戦略最適化と技術革新—」と題し、肺移植の概要、ドナー管理、レシピエントの選択・管理、術中管理、終末期肺疾患に肺がんを合併した症例への対応及び肺移植分野における交流・協力について、同院の取組を紹介した。

講演会終了後には情報交換会が開催され、参加者間で活発な意見交換が行われるとともに、交流と親睦を深める機会となった。

笹川医学奖学金同学会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街联想大厦101号
西直门公寓C座0248

联系电话：010-62256266 15901208067

邮 箱：sc1000@vip.163.com

网 址：https://www.sskw.net

Supported by

日本財団

THE NIPPON FOUNDATION

笹川医学奖学金同学会
华东地区学术交流会

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会

支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团

承办单位：笹川医学奖学金华东地区分会

2025年11月15日

会议时间	2025年11月15日（周六）
会议地点	武夷山庄（福建省南平市武夷山市武夷宫路32号）
会议安排	11月15日 14:30 签到（大王兰亭厅） 11月15日 15:00-18:05 学术研讨会 11月15日 18:05-20:00 晚宴（幔亭西餐厅）

会议主题：肿瘤防治
会场主持人 李忠金（笹川12期） 笹川医学奖学金同学会 秘书长
会议议程
14:30-15:00 签到
15:00-15:05 致辞 冈田光子 日中医学协会 事务局长
15:05-15:10 致辞 李宗 教授（笹川12期）福建地区代表
15:10-15:15 致辞 孙伟 教授（笹川18期）华东地区代表

15:15-16:00	题目：肺结节的影像诊断思路与临床管理要点 贾立中 教授（笹川29期） 安徽省芜湖市第一人民医院 影像科
16:00-16:30	题目：抗肿瘤药物新靶 ADC 武巍 教授（笹川13期） 百力司康生物医药有限公司
16:30-17:00	题目：食管癌治疗新理念与新框架 李旭 教授（笹川22期） 福建医科大学附属医院 胸外科
17:00-17:30	题目：结直肠癌早期筛查和防治 钱俊 教授（笹川26期） 浙江省肿瘤医院 大肠外科
17:30-18:00	题目：聚焦终末期肺病：肺移植全流程管理的策略 优化与技术创新 孙长博 主治医师（笹川38、40、44期） 上海市肺科医院 胸外科
18:00-18:05	合影
18:05-20:00	晚宴

51

4 支部学術会議

4.6 日本支部学術交流会

開催日	2026年3月8日(日)
会場	TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口(東京都)
実施責任者	趙松吉 福島県立医科大学先端臨床研究センター教授(第19期生)
参加者	38名(オンライン参加者を含む) 佐藤英夫日本財団常務理事(祝辞)、祝学華中国駐日本国大使館科学技術部公使参事官(祝辞)、苗允参事官、朱小博一等書記官、安達勇日中医学協会副会長・理事(挨拶)、日本在住の笹川同学会会員他
テーマ	医学研究を通じた日中交流の継続と深化
プログラム	1) 長野清一 大阪大学大学院医学系研究科神経内科学特任教授 (第39期指導教官) 「日本の筋萎縮性側索硬化症(ALS)の診断・治療の現状」 2) 李天成 国立感染症研究所ウイルス第二部再任研究員(第11期生) 「E型肝炎ウイルスの動物モデルとワクチン」 3) 伊藤 浩 福島県立医科大学先端臨床研究センター副センター長 (第42期指導教官) 「認知症の画像診断—疾患修飾薬とアミロイドPET検査—」 4) 安井 寛 聖マリアンナ医科大学血液・腫瘍内科学特任教授 (第45期共同研究者) 「臨床と研究をつなぐトランスレーショナルリサーチの歩み—がん・難治性疾患・EBウイルス関連疾患を例に—」 5) 趙松吉 福島県立医科大学先端臨床研究センター教授(第19期生) 「福島県立医科大学におけるアルファ線治療法の開発の現状・展望(updated)」 情報交換会



会場様子



長野 清一先生



李 天成先生



伊藤 浩先生



安井 寛先生



趙 松吉先生



集合写真

報告:2026 年 3 月 8 日(日)、笹川医学奨学金進修生同学会(笹川同学会)日本支部学術シンポジウムが東京都品川区で開催された。

本シンポジウムは、「医学研究を通じた日中交流の継続と深化」をテーマに開催され、日本支部会員に加え、中国駐日本国大使館科学技術部の祝学華公使参事官、苗允参事官、朱小博一等書記官、日本財団の佐藤英夫常務理事、日中医学協会の安達勇副会長・理事及び協会事務局が参加し、交流を深めた。

日本支部では毎年、笹川医学奨学金進修生 OB・OG による学術交流会を開催しているが、今回は日中間の共同研究や研究指導に携わってきた研究者を講師として招き、最新の医学研究に関する講演を実施した。

各講演では、最先端の医学研究の成果や研究動向が紹介され、参加者から多くの質問が寄せられるなど活発な質疑応答が行われた。シンポジウムは、最新の医学知見の共有とともに、日中両国の研究者間の交流を一層深める有意義な機会となった。

笹川医学奨学金進修生同学会 日本支部 2025 年度学術シンポジウム プログラム



会 期：2026年3月8日(日) 13:00～20:00
会 場：TKPガーデンシティ PREMIUM品川高輪口 (Web配信あり)
主 催：笹川医学奨学金進修生同学会 (笹川同学会) 日本支部
共 催：笹川同学会本部、日中医学協会
助 成：日本財団
後 援：中国国家衛生健康委員会

学術シンポジウム (13:00～17:30)

主 題：医学研究を通じた日中交流の継続と深化
司 会：李 亜範 笹川同学会日本支部副会長 (常務) (第13期生)
開会挨拶：趙 松吉 笹川同学会日本支部 会長 (第19期生)
挨拶：安達 勇 日中医学協会 副会長・理事
祝 辞：佐藤 英夫 日本財団 常務理事
祝 辞：祝 学華 中華人民共和国駐日本国大使館科学技術部 公使参事官

■集合記念写真

■研究発表 I

座 長：金 京子 東京医科大学病院 高齢診療科 医師 (第19期生)
畢 袖晴 金沢大学大学院薬保健学総合研究科国際感染症制御学 助教 (第23期生)
劉 瑞芹 医療法人社団順瑞会 平和記念医院 理事長・院長 (第25期生)

講演 1 日本の筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の診断・治療の現状
長野 清一 大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学講座
同 連合小児発達学研究科 神経発達・変性疾患共同研究講座 特任教授
(第39期指導教官)

講演 2 E型肝炎ウイルスの動物モデルとワクチン
李 天成 国立感染症研究所ウイルス第二部 再任用研究員
(第11期生、第32、33、36期指導教官、第41期共同研究者)

講演 3 認知症の画像診断 一疾患修飾薬とアミロイド PET 検査一
伊藤 浩 福島県立医科大学 放射線医学講座 主任教授
同 先端臨床研究センター 副センター長 (第42期指導教官)

■研究発表 II

座 長：呉 秀賢 西宮渡辺病院 泌尿器科 部長 (第19期生)
呂 玉泉 大阪大学大学院医学系研究科 助教 (第15期生)

講演 4 臨床と研究をつなぐトランスレーショナルリサーチの歩み
一がん・難治性疾患・EBウイルス関連疾患を例に一
安井 寛 聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科学講座 特任教授
(第45期共同研究者)

講演 5 福島県立医科大学におけるアルファ線治療法の開発の現状・展望 (updated)
趙 松吉 福島県立医科大学 先端臨床研究センター 教授
福島国際研究教育機構 上席研究員 (第19期生、第45期共同研究者)

■閉会挨拶

情報交流会 (18:00～20:00)

5 日中ハイエンド医学フォーラム

5.1 「大健康」フォーラム

開催日	2026年3月7日(土)
場所	長富宮飯店(北京市)
実施責任者	李忠金 北京雅達翻訳会社総経理(第12期生)
参加者	75名 笹川同学会会員等
テーマ	心身の健康
プログラム	1) 龍 迪 中国科学院心理研究所 「マインドフルネスな生活: 苦しみの捉え方を変える文化的資源」 2) 冉玉平 四川大学華西病院皮膚性病科主任医師、教授(第4期生) 「脱毛: 全年齢層における悩みと臨床的対策」 3) 李顯筑 黒龍江省中西医结合研究所教授(第8期生) 「中医学の『平衡・通暢』理論に基づく心身の健康——西洋医学との融合によるホルモンバランス調整と感情解放の新たなアプローチ」 4) 張春東 中国医科大学附属第四医院腫瘍外科副主任医師 (第40期生<学位取得コース>) 「大腸がん臨床データベースの構築と応用」
 龍 迪先生  冉玉平先生  李 顯筑先生  張春東先生	



集合写真

報告：龍迪先生は、「正念生活とは、頭の中を空っぽにすることでも、仏教的な『無為』を意味するものでもなく、一瞬一瞬を明確に意識しながら生きることである。思考が浮かんだときはそれに気づき、感情が湧いたときはそれを受け入れ、目の前の物事に取り組む際には、そのことに心を集中させることが重要である」と述べ、正念の本質について解説した。

冉玉平先生は、抜け毛はもはや中高年に限った悩みではなく、青少年から若年層、中年、高齢者に至るまで、あらゆる世代が直面する共通の課題となっていると指摘した。抜け毛は単なる生理現象にとどまらず、外見への不安や自己評価の低下、さらには日常生活や対人関係における心理的負担など、多方面に影響を及ぼしていると説明した。一方、医学の進歩に伴い、科学的根拠に基づく診断・治療法が発展し、薄毛に悩む人々に対して実践的かつ効果的な改善策が提供されつつあることを紹介した。

李顕筑先生は、生活習慣病リハビリテーション訓練基地の設立は、不健康な生活習慣の改善と心身の健康増進を目的とした有効な取り組みであると説明した。同基地では、高血糖、高血圧、脂質異常症、高血液粘度、高尿酸血症、アレルギー性疾患、腫瘍などの生活習慣病を対象に、健康状態の評価、健康バランスの乱れへの介入、健康的な生活習慣の定着支援および慢性疾患の進行抑制を目的としたプログラムを実施している。また、専門医による健康評価や健康指導に加え、食事指導、運動療法、心理面への支援などを組み合わせた包括的な健康管理を通じて、受講者の健康増進を図っていることを紹介した。

張春東先生は、大腸がん臨床データベースの構築について、「標準化を基盤とし、品質管理を中核とし、臨床応用を志向するシステムプロジェクト」であると説明した。単一施設における精緻なデータ管理から全国規模の多施設共同研究への展開、さらにデータの蓄積からAIを活用した臨床支援への発展により、大腸がん診療は経験に依存した医療からデータに基づく精密医療へと大きく転換しつつあると述べた。今後は、標準化システムのさらなる整備、AI技術の普及および分野横断的なデータ共有体制の構築を通じて、大腸がん臨床データベースの価値を一層高め、精密医療の推進と患者の予後改善に重要な役割を果たすことへの期待が示された。

笹川医学奖学金同学会办公室
地址：北京市海淀区西直门北大街联建路 101 号
西峰公寓 C 座 0248
联系电话：010-62256266 15901208067
邮 箱：sc1000@vip.163.com
网 址：https://www.sskw.net



笹川医学奖学金同学会 2025 年度大健康论坛

主办单位：笹川医学奖学金同学会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金同学会
2026 年 3 月 7 日

会议时间	2026 年 3 月 7 日（周六 下午）		
会议地点	长富宫饭店（二层 茉莉雨水连厅）		
会议安排	3 月 7 日	14:00	签到
	3 月 7 日	14:20—18:00	学术研讨会
	3 月 7 日	18:00	晚宴

会议主题：身心健康

会场主持人 许顺 教授（笹川 15 期）
笹川医学奖学金同学会 副理事长

会议议程

14:00-14:20	签到	
14:20-14:30	致辞 赵群 教授（笹川 10 期） 笹川医学奖学金同学会 理事长	
14:30-15:20	题目：正念生活：转化我们痛苦的文化资源 龙迪 教授 中国科学院心理研究所	

15:20-16:00	题目：脱发：全年龄人群的烦恼及临床对策 冉玉平 教授（笹川 4 期） 四川大学华西医院 皮肤性病科	
-------------	---	--

16:00-16:20 茶歇

16:20-17:00	题目：平衡通络学说与身心健康：融合中西医视角 调节激素平衡与缓解情绪堆积 李昱斌 教授（笹川 8 期） 黑龙江省中西医结合研究所	
-------------	---	--

17:00-17:40	题目：大肠癌临床数据库的构建与应用 张春东 副主任医师（笹川 40 期） 中国医科大学附属第四医院 肿瘤外科	
-------------	--	--

17:40-17:50	会议总结 赵群 教授（笹川 10 期） 笹川医学奖学金同学会 理事长	
-------------	--	--

17:50-18:00 合影

18:00-20:00 晚宴

6 第 47 期研究者結団式

6.1 第 47 期研究者結団式

開 催 日	2026年3月6日(金)
会 場	長富宮飯店、中国国家衛生健康委員会ビル内会議室
実 施 責 任 者	李忠金 笹川同学会秘書長(第 12 期生)
参 加 者	40名 第47期研究者、笹川同学会本部
プ ロ グ ラ ム	～長富宮飯店から中国国家衛生健康委員会へ移動～ ●中国国家衛生健康委員会にて出国前説明会 ～中国国家衛生健康委員会から長富宮飯店へ移動～ ●結団式 笹川生体験談 冉玉平 四川大学華西医院 皮膚性病科教授(第 7 期生) 第47期笹川生自己紹介 研究者交流会



中国国家衛生健康委員会ビルにて集合写真



冉玉平先生



交流会様子

報告：国家衛生健康委員会国際合作司の「日中笹川医学奨学金制度第 47 期生出国前説明会」開催通知に基づき、第 47 期＜学位取得コース＞＜ポストドクターコース＞＜共同研究コース＞研究者全員が国家衛生健康委員会での説明会に出席した。

その後、長富宮飯店へ移動し、笹川同学会は第 47 期結団式を開催した。

結団式では、先輩の冉玉平先生から来日研究の体験を聞き、第 47 期研究者全員が自己紹介し、笹川生としての誇りを思い、来日の抱負などを述べ、来日の心の準備ができた。

7 ＜共同研究コース＞研究者成果報告会

7.1 <共同研究コース>研究者成果報告会

開催日	2026年3月7日(土)
会場	長富宮飯店(北京市)
実施責任者	李忠金 笹川同学会秘書長(第12期生)
参加者	75名
プログラム	1) 芦 起 重慶医科大学附属児童醫院新生児診療センター教授(第41期生) 「GENECUBE 全自動遺伝子分析装置を用いたカルバペネマーゼ遺伝子の迅速検出」 2) 李 莉 山西医科大学第一醫院看護部教授(第44期生) 「炎症性皮膚疾患における健康教育および自己管理に関する多施設共同研究」 3) 蔣培都 電子科技大学附属病院薬剤部／四川省人民醫院薬剤部教授 (第45期生) 「新規オートファジー調節剤 Y21 が多発性嚢胞腎細胞の増殖に及ぼす影響」 4) 劉碧天 中国医科大学附属盛京醫院泌尿器科教授(第45期生) 「膀胱がんにおけるマイクロバイオーム－免疫－発がん物質代謝軸：最前線メカニズムの概説と筋層浸潤進展に関する空間マルチオミクス解析」 5) 周 建 首都医科大学附属北京口腔醫院特診特需科主任醫師、教授 (第46期生) 「Wnt3a による歯髄幹細胞の象牙芽細胞分化制御に関する単一細胞トランスクリプトーム特性および代謝・エピジェネティクス機構の解明」 6) 全曉靜 西安交通大学第二附属医院 消化器内科主治醫師(第46期生) 「早期胃がんの浸潤深達度評価における EUS、CE および ME の診断能比較研究」 7) 陳宏達 中国医学科学院北京協和醫院轉化医学国家重大科技基礎施設研究員 (第46期生) 「大腸がんリスク予測モデルと精密層別化スクリーニング戦略」 8) 李 卓 西安医学院第一附属医院検査科教授(第46期生) 「腫瘍予後評価—秋田大学との共同研究に関する報告」 9) 王 帥 復旦大学附属中山醫院胸部外科主治醫師(第46期生) 「重症筋無力症に対する胸腺摘出術：国際多施設臨床研究」



赵群（10期笹川生）笹川同学会理事长



余志文 国家卫健委 亚太处处长



王帅（46期笹川生）复旦大学附属中山医院
胸外科 主治医师



李卓（46期笹川生）西安医学院第一附属医院
检验科 教授



周建（46期笹川生）首都医科大学附属北京
口腔医院 特诊特需科 教授



李莉（44期笹川生）山西医科大学第一医院
护理部 副主任



卢起（41期笹川生）重庆医科大学附属儿童
医院 新生儿诊疗中心 教授



刘碧天（45期笹川生）中国医科大学附属盛
京医院 泌尿外科 副教授



蒋培都（45期笹川生）电子科技大学附属
医院 四川省人民医院 药学部 教授



集合写真

報告：成果報告会では、まず実施団体である笹川同学会より挨拶が行われ、続いて余志文・中国国
家衛生健康委員会国際司亜太处处长より祝辞が述べられた。余处长は、本共同研究事業が日中両
国の学術交流と医療研究の発展に寄与していることを高く評価し、今後のさらなる協力への期待を示
した。

続いて、第40期から第46期までの9名の研究者が登壇し、日本滞在中に実施した共同研究の内
容と成果、ならびに日本側研究チームとの協力体制の進捗状況について報告した。研究者らは、すで
に研究データや研究資源を相互に共有し、円滑かつ強固な協力体制を構築していることを説明した。

また、帰国後に得られた研究成果についても紹介し、共同研究が継続的に発展していることを示した。

参加者からは、日本での研修や共同研究を通じて得た経験について率直な感想が述べられた。特に、日本の研究者が示す厳格で緻密な研究姿勢、細部まで妥協せず完璧を追求する態度、そして一つの課題を粘り強く深く掘り下げる研究精神に対して高い評価が寄せられた。

さらに、研究者たちは今回の共同研究を「終点ではなく新たな出発点」と位置付け、今後は本事業で得られた成果を原動力として研究活動を着実に推進し、継続的なイノベーションを生み出すことで、中国の科学研究の発展および国際交流・協力の深化に積極的に貢献していきたいとの抱負を述べた。

笹川医学奖学金委员会办公室

地址：北京市海淀区西直门北大街顺源里101号
西直门公寓C座0248
联系电话：010-62255266 15901208067
邮箱：sc1000@vip163.com
网址：https://www.sskw.net



中日笹川医学奖学金项目（40-46期） 共同研究学员成果汇报会

主办单位：笹川医学奖学金委员会、日中医学协会
支持单位：国家卫生健康委员会、日本财团
承办单位：笹川医学奖学金委员会
2026年3月7日

会议时间：2026年3月7日（周六 上午）

会议地点：长富宫饭店（二层 茉莉雨水莲厅）

会议安排：
3月7日 8:00 签到
3月7日 8:30—12:00 成果汇报会
3月7日 12:10 午餐

会议主题：

笹川医学奖学金（40-46期）共同研究学员成果汇报会

会场主持人：许顺 教授（笹川15期）
笹川医学奖学金委员会 副理事长

会议议程：

8:00-8:30	签到
8:30-8:35	致辞 赵群 教授 笹川医学奖学金委员会 理事长（笹川10期）
8:35-8:40	致辞 余志文 先生 国家卫生健康委 国际合作司亚太处 处长
8:40-9:00	题目：利用 GENECUBE 全自动基因分析仪快速检测 腺胃腺癌基因 卢超 教授（笹川41期） 重庆医科大学附属儿童医院 新生儿诊疗中心
9:00-9:20	题目：炎症性皮肤病健康教育及自我管理的多中心研究 李莉 教授（笹川44期） 山西医科大学第一医院 护理部
9:20-9:40	题目：新型自噬调节剂 Y21 对多瘤瘤细胞生长的影响 蒋培都 教授（笹川45期） 电子科技大学附属医院 四川省人民医院 药学部

9:40-10:00	题目：脾脏癌生物学-免疫-微环境代谢物：前沿机制 综述与肌层浸润性进展的空间多组学解析 刘继天 副教授（笹川45期） 中国医科大学附属盛京医院 泌尿外科
10:00-10:15	茶歇
10:15-10:35	题目：特定 Wnt3a 调控牙髓干细胞成牙分化的单细胞 转录组特征及代谢-表观遗传机制探究 周建 教授（笹川46期） 首都医科大学附属北京口腔医院 特诊特需科
10:35-10:55	题目：早期胃癌浸润深度评估中 EUS、CE 和 ME 的诊断能力比较研究 全晓静 主治医师（笹川46期） 西安交通大学第二附属医院 消化科
10:55-11:15	题目：结直肠癌风险预测模型和精准分级筛查策略 陈宏达 研究员（笹川46期） 中国医学科学院北京协和医院 转化医学国家 重大科技基础设施
11:15-11:35	题目：肿瘤预后评估——我团队与秋田大学的共同 研究交流汇报 李卓 教授（笹川46期） 西安医学院第一附属医院 检验科
11:35-11:55	题目：腹腔镜切除治疗重症肌无力：一项国际多中心 临床研究 王坤 主治医师（笹川46期） 复旦大学附属中山医院 胸外科
11:55-12:05	会议总结 赵群 教授（笹川10期）笹川医学奖学金委员会 理事长
12:05-12:10	合影
12:10-13:00	午餐

8 広報活動

笹川医学奖学金同学会

2025 年特刊

目录

2025年度笹川同学会基层医生培训	1
腹腔镜实用技能培训班	1
高血压诊治技术培训班	3
消化内镜实用技能培训班	4
云南乡村医生培训班	5
呼吸疾病防治对策培训班	7
协和妇产科培训班	8
2025年度笹川同学会地方医疗支援活动	9
基层医疗支援黑龙江省安庆县人民医院活动	9
基层医疗支援湖南省娄底市第一人民医院活动	10
基层医疗支援陕西省吴起县人民医院活动	11
2025年度笹川同学会地区学术交流会	12
东北地区学术交流会	12
北京及西北地区学术交流会	13
西南地区学术交流会	15
华北、华中、华南、安徽、山东、江西地区学术交流会	16
华东地区学术交流会	17
中日大健康论坛	19
2025年度笹川医学奖学金项目其它活动	21
笹川医学奖学金项目第46期〈攻读博士学位型·博士后研究型〉研究员认定典礼	21
中日笹川医学奖学金项目第46期〈共同研究型〉研究员交流会	24
笹川医学奖学金项目第47期研究员日语培训	29
笹川医学奖学金项目（第40—46期）〈共同研究型〉研究员成果汇报会	30
笹川医学奖学金项目第47期研究员出国前说明会	31
2026年笹川同学会工作计划	32

腹腔镜实用技能培训班

2025 年 5 月 10-11 日，为深化国际医学合作、推动区域肝胆胰外科诊疗水平提升，由笹川医学奖学金同学会主办，哈尔滨市第一医院承办的腹腔镜技能培训班圆满举行。本次培训吸引了国内外众多知名专家，以及黑龙江省各地市县的 70 余名普外科骨干医师齐聚一堂，培训聚焦普通外科基础与前沿技术，采用理论讲授和手术观摩相结合的方式，提升学员的腹腔镜理论知识与技能水平，为推动我市腹腔镜技术规范应用与学科高质量发展注入新动能。



开幕式上，哈市一院院长闫宏伟致辞。他指出，本次大会的举办是医院贯彻落实国家“健康中国”战略、深化医疗卫生体制改革的重要实践，也是依托“笹川医学奖学金”这一中日卫生领域合作典范项目，推动优质医疗资源下沉、提升基层服务能力的创新举措，旨在搭建学习国际先进医疗技术和理念的桥梁，促进国内外医疗界深度交流合作，并回顾了哈尔滨市第一医院普外科发展历程：从 1994 年独立完成全省首例腹腔镜下胆囊切除术，到 2013 年率先开展 3D 腹腔镜技术，再到 2024 年引入人工机器人手术系统，医院始终以技术创新为引擎，引领区域外科诊疗向智能化、精准化迈进，为龙江百姓提供更优质、更高效的医疗服务。



笹川同学会李忠金秘书长在致辞中，对哈市一院举办此次培训班表示祝贺与感谢，并介绍了中日笹川医学合作项目。他希望两国医学同仁深入交流、相互学习，共同推动腹腔镜技术创新发展，为医学事业贡献更多力量。



李晓阳（8 期笹川生）教授在致辞中感谢笹川同学会及与会专家，回顾了哈市一院与日本医学界数十年的友好交流历史，高度评价了笹川医学奖学金项目在推动中日医学交流合作中的重要作用。他还介绍了哈市一院在腹腔镜技术领域的突出成就，鼓励学员汲取国际先进经验，将培训成果转化为临床实践效能，为推动区域肝胆胰外科规范化、同质化发展贡献力量。



哈尔滨市卫健委闫松主任在开幕致辞中提出了三点期望：一是要锚定战略方向，勇担时代使命；二是聚焦创新驱动，打造学科高地；三是坚守为民初心，夯实健康根基。希望分会发挥积极作用，助力我市实现“打造东北地区医疗高地，建设国际医疗服务枢纽城市”的战略目标，和健康哈尔滨建设注入强劲动能。



培训期间，哈医大四院徐力善教授及哈市一院普外科多位知名专家进行了精彩讲座，内容涵盖腹腔镜技术发展、手术技术要点、并发症预防等领域，分享了前沿思想与丰富临床经验。此外，通过腹腔镜下肝部分切除术、甲状腺切除术等多种手术演示，

展示了精湛的手术技巧和严谨的操作流程，让学员们拓宽了视野，提升了专业技能与素养。



此次培训在哈尔滨市第一医院的成功举办，不但为普外科医学同仁搭建了交流学习的优质平台，而且为哈尔滨市乃至全省腹腔镜技术的持续进步注入了新动力。未来，哈市一院将持续深化与国内外顶尖医疗机构的战略合作，以技术创新为引领、以学科建设为支撑、以人才培养为根本，为推动区域医疗卫生事业高质量发展、守护人民群众生命健康做出新的更大贡献。



高血压诊治技术培训班

为进一步提升基层睡眠呼吸疾病诊疗能力，推动新疆地区高血压心血管疾病与睡眠呼吸障碍临床诊疗技术规范化、标准化，展示该领域的最新进展情况，2025年5月27日由笹川医学奖学金学会主办，国家卫健委高血压诊疗研究重点实验室、自治区人民医院高血压中心承办，在乌鲁木齐举办了为期2天的“笹川同学会睡眠呼吸疾病”培训班，为医学同仁搭建一个相互交流、共同提高的学术平台。

区人民医院高血压中心团队精心准备了授课内容，51名学员分别来自伊犁、喀什、和田等十四个地州市。通过系统化、专业化的培训，助力睡眠呼吸疾病的“早期筛查、精准诊断、规范治疗”能力的提升以及优质医疗资源的下沉。国家卫健委高血压诊疗研究重点实验室、新疆维吾尔自治区人民医院高血压中心主任李南方教授、笹川同学会李忠金秘书长出席本次培训班的开幕式和全天授课。

开幕式由新疆维吾尔自治区人民医院高血压中心睡眠中心主任汪迎春主持。汪主任感谢笹川同学会对本届学习班的大力支持，希望学员们珍惜这次难得的机会，与专家同仁们进行深入交流，力争将前沿诊疗技术带回各自工作岗位，服务当地患者，共同推动睡眠医学的学科融合发展，为更多的基层患者提供优质的服务。

李忠金秘书长在致辞中重点介绍了笹川医学奖学金项目、同学会项目的具体活动内容以及举办本次培训班的宗旨，对李南方教授带领的高血压团队长期以来为新疆各地州的扶贫工作、疆内优秀人才中长期培训以及对基层医务人员培训做出巨大贡献给予了高度赞扬。李忠金秘书长表示，笹川医学奖学金同学会在今后还会一如既往的支持李南方教授，为更多的新疆疆内医生争取学习交流的机会。

李南方教授对笹川同学会多年来对新疆基层扶贫工作、基层医生中长期培训和睡眠呼吸疾病学习班的大力支持表示衷心感谢。李教授表示：新疆地域辽阔，医疗资源分布不均衡，本次培训正是要充分发挥高血压专科联盟的平台优势，结合新疆多民族地区的诊疗特点，通过理论授课、病例讨论等多种形式，将前沿的睡眠医学技术和理念引入课堂，致力于提升基层医务人员的诊疗能力。迄今为止的五期培训班已获得广大医务工作者的高度评价，带动了全疆医务人员对睡眠呼吸疾病的认识和重视，希望第六期培训班的开展能让更多的医务人员掌握睡眠呼吸障碍诊疗新技术规范化标准化，带动全疆医学的发展。

开幕式后，全体工作人员与学员进行合影留念，会议进入正式的授课阶段。



消化内镜实用技能培训班

2025年8月17-18号，由笹川医学奖学金同学会主办、中国医科大学附属盛京医院承办、国家消化内镜工程中心及深圳开立生物医疗科技股份有限公司协办的“辽宁省消化内镜实用技能培训班”举办第三次培训活动。

本次活动邀请到笹川医学奖学金同学会赵群理事长、中国医科大学副校长孙思予为会议做开场致辞，赵群理事长表达了笹川医学奖学金作为一个公益性质的基金会，每年培养国内全科医生上百名，此次针对于内镜医生的基层培训已经是第三次，每次的学习班学员的热情以及授课医生的讲座本身非常有意義。孙思予校长作为承办方，除了表达对笹川医学奖学金同学会的支持之外，也表示盛京医院消化内镜中心，作为辽宁省消化内镜主委单位，肩负着提高基层医院的内镜技术的责任，希望各基层医院有能力留住患者，针对于消化道早期癌疾病的早查早筛、早诊早治，做出基层医院该有的诊疗方式，落实国家医疗资源下沉、将病人留在基层医院的政策。

会议分为两天，包括理论授课、手术观摩、动物实验三个部分，由盛京医院共七位专家，学术分享了多方面的内容，基础课程如：《消化道出血的内镜下急诊急救》、《大肠EMR的学习笔记》、《早期胃癌的内镜诊断流程》、《慢性胃炎的内镜诊断》等等，高阶课程如：《超声小探头的临床应用》、《ESD术中常用器械选择与使用》等等，来参加学习的学员老师，对课程都非常感兴趣。

手术观摩环节，让学员看到了盛京医院的日常工作状态以及各式各样的术式，即使是暂时没有学到的技术，也表示未来要来盛京多参加学习班，多学习理论知识，多开展术式。

动物活体猪操作，邀请了盛京医院的老师全程带教。操作类型内镜下粘膜剥离术（ESD）术式。针对于发现胃肠早期癌变后的息肉切除/剥离，也进一步提高了手术熟练性。

会议结束后，所有领导和学员在一起合影，学员们也向主办方和承办方表达感谢，这一次的学习机会很难得，希望以后能有更多的学习班让他们参与。



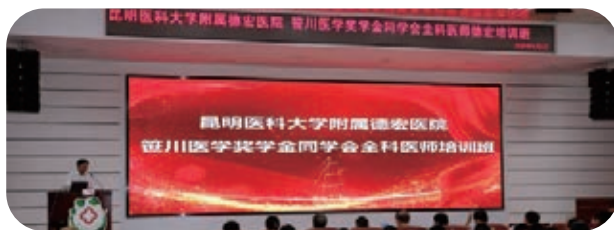
云南乡村医生培训班

2025年9月5日至7日，由笹川医学奖学金同学会资助、昆明医科大学附属德宏医院（德宏州人民医院）具体承办的“第二届笹川医学奖学金同学会全科医师德宏培训班”顺利举办。本次培训班旨在持续提升边疆民族地区全科医师的专业素养与临床技能，促进最新医学共识与指南的落地应用，紧密结合德宏及周边地区多民族、边疆性的实际医疗状况与特色需求，为推进健康云南、健康德宏建设注入新动力。

培训班荣幸地邀请到多位国内及省内重量级领导和专家莅临指导并授课，包括昆明医科大学党委委员、副校长何永文教授，昆明医科大学前任校长李松教授、云南中医药大学副校长温伟波教授，昆明医科大学第二附属医院前任院长曾勇教授、云南省第一人民医院副院长郭强教授，笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长，以及来自昆明医科大学各附属医院、云南省第一人民医院、昆明市延安医院、西双版纳州傣医院等医疗机构的众多知名专家教授。

我院院领导及相关职能部门负责人，在培助理及全科医生，以及来自德宏州各县市各级医疗机构的150余名全科医学专业人员参加了本次培训。

培训班在简短而隆重的开班仪式中拉开帷幕。仪式由德宏州人民医院徐芳副院长主持，附属德宏医院党委副书记、院长陶安周、昆明医科大学副校长何永文、笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金分别致辞，强调了全科医学在基层卫生健康工作中的关键作用，并寄语学员珍惜学习机会，努力将专家的宝贵经验与先进理念转化为服务基

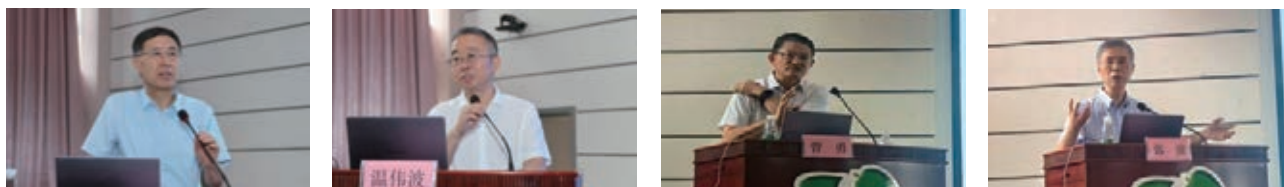


层、服务患者的实际能力。

在为期两天的学术活动中，专家们围绕“AI医学时代全科医生面临的机遇与挑战”、“老年共病的识别与社区管理”、“全科医生视角下的心理治疗”、“消化系统常见病的规范化诊治”、“全科临床思维的建立”、“内分泌代谢疾病的全科管理”等主题进行了深入浅出的主旨讲座，并对《“三高”共管规范化诊疗中国专家共识》《基层版慢性阻塞性肺疾病指南》《2025年基层高血压诊疗指南》等最新指南共识进行了权威解读。此外，结合地方特色培训班还安排了“地中海贫血流行病学及防控”和“傣医傣药特色治疗”专题内容，丰富了培训内涵。



专家授课



9月7日下午，部分授课专家在我院领导陪同下参观了昆明医科大学附属德宏医院西院区，并就西院区的建设与发展提出了宝贵的指导性意见。



呼吸疾病防治对策培训班



为切实提升基层医务人员的呼吸系统慢性疾病的诊治能力，2025年7月11-12日，由笹川医学奖学金同学会主办、中日友好医院承办的呼吸慢病培训班在中日友好医院顺利举办。来自河北省各县区的近150名基层医务人员参加了本次培训。

开班仪式由中日友好医院崔勇副院长主持，中国中西医结合学会会长陈香美院士、中日友好医院党委书记宋树立、笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长、河北省驻京办副主任牛兴元出席仪式并致辞。

本次培训紧扣基层实际需求，课程内容丰富、实用性强。中日友好医院呼吸科的杨汀、张洪春、谢万木、韩桂玲、王一民、江山、张永明、李勇、鲁炳怀

等多位专家，围绕围出院期管理、中医药在慢阻肺病中的应用、肺栓塞、慢阻肺、呼吸道感染、呼吸康复、哮喘规范管理、肺功能操作、微生物检测等主题，进行系统讲解与案例分享，内容覆盖从病因机制、诊断思路到治疗策略与长期管理的全流程。

本次培训有效提升了参训学员对呼吸慢病的综合诊治与管理能力，为推动基层呼吸慢病防治工作规范化、同质化发展奠定了坚实基础。今后，同学会将持续推进后续培训工作，面向更多地区的基层医务人员开展有针对性培训，切实筑牢基层医疗卫生服务防线，为提升全国基层呼吸系统慢病防治水平、保障人民群众身体健康做出更大贡献。



协和妇产科培训班



为进一步提升国内基层妇产科医疗人员的临床实用技能与诊疗规范化水平，缩小城乡及不同层级医疗机构间的诊疗水平差距，2026年1月12-13日由笹川医学奖学金同学会主办、北京协和医院妇产科承办的“妇产科实用技术标准培训班”在北京协和医院顺利举办。

本次培训聚焦基层临床需求，以“标准化、实用性、针对性”为核心导向，两天培训期间共计24名学员全程参加培训，他们分别来自协和医院本部、吉林通化市中心医院、鄂尔多斯市中心医院、濮阳市油田总医院、华北石油管理局总医院、河北省曲周县医院、湖北民族大学附属民大医院、河南省人民医院、内蒙古锡林郭勒盟中心医院、江苏徐州市妇幼保健院、河南漯河市市中心医院及河北沙河市人民医院。

本次培训课程体系设置全面且贴合临床实际，精

准覆盖妇产科核心诊疗领域，兼顾理论更新与实践指导。具体涵盖：基层妇科常见多发病——妇科炎症的规范化诊治方案，包括病因鉴别、用药原则及复发防控；子宫肌瘤的分型诊断、个体化治疗策略及手术适应症把控；女性盆底障碍性疾病的早期筛查、康复干预及手术治疗要点；宫颈癌筛查的最新技术进展、结果解读标准及癌前病变的处理流程；辅助生育技术的全流程解读，包括适应症评估、诊疗规范及并发症管理；临床高危病种——瘢痕妊娠的早期识别、风险评估及安全处理方案；产科核心诊疗规范，含孕期产检全周期管理、入院评估流程及高危妊娠初步筛查；以及胎心监护的图谱解读技巧、异常情况应急处理预案等内容，全面覆盖妇科、产科核心诊疗领域及生殖健康相关关键环节，为学员构建了系统完整的知识体系。为切实提升学员的实操能力，1月13日下午专门设置了实操技能培训环节。

本次培训通过理论与实操的深度融合，不仅有效更新了参会医师的妇产科专业知识储备，更显著提升了其临床实操能力与诊疗规范化意识，切实解决了基层医师在日常诊疗中遇到的诸多困惑。参训学员纷纷表示，培训内容实用、针对性强，对今后的临床工作具有重要的指导意义。此次培训的成功举办，为基层妇产科医疗队伍建设注入了专业力量，助力推动我国妇产科医疗服务规范化、同质化水平的整体提升。



基层医疗支援黑龙江省庆安县人民医院活动

为深入贯彻落实国家卫生健康政策，提升基层医疗机构中西医结合医疗诊治服务能力，笹川医学奖学金同学会委托黑龙江省中西医结合学会，于2025年7月26日至27日，在黑龙江省庆安县人民医院开展了医疗帮扶义诊活动。

此次活动汇聚了黑龙江省内多位享有盛誉的留日归国医学专家：黑龙江省中西医结合学会会长、黑龙江中医药科学院内分泌专家李显筑（笹川8期）教授，黑龙江中医药大学附属第一医院脑病专家程为平（笹川21期）教授，儿科专家张伟教授，黑龙江中医药大学附属第二医院肾病科王丹教授，风湿病专家关立峰教授。

26日上午8时，笹川同学会的基层医疗帮扶活动拉开序幕。在内分泌诊室，李显筑教授会诊一位患糖尿病多年的七旬老人。老人血糖控制一直不理想，却因行动不便很少去省城复查。李显筑教授除了为老人调整了用药方案外，还用通俗易懂的语言讲解了饮食控制和日常监测要点，最后将自己的联系方式留给老人，以便后续问诊。

在脑病专家程为平教授的诊台前，一位中风后遗症患者正在接受针灸治疗。程教授将在日本掌握的神经康复技术与中医传统针灸相结合，手法精准娴熟。

“基层有很多中风患者需要规范康复，我们要把诊治技术留在这里。”程教授边治疗，边向当地医生讲解技术要点。

在儿科诊室内，张伟教授正轻声安抚一名咳嗽不止的患儿。经过细致听诊和询问，初步判断患儿是过敏性咳嗽，并详细向家长解释了过敏原排查和家庭护

理方法。

除在现场开展义诊外，同学会还开展了学术讲座和技术交流等活动。26日下午，扶贫义诊团为庆安县人民医院及周边地区的基层医护人员举办了三场专题学术讲座。

王丹教授围绕“慢性肾脏病的中西医结合管理”进行讲解，结合日本在肾病早期筛查和管理的先进经验，提出了适合基层医院的筛查流程和干预方案。

关立峰教授则分享了风湿免疫疾病的最新诊疗进展，重点介绍了如何在基层条件下进行鉴别诊断和规范治疗。

“这些知识太实用了！”医院内科主任表示，“我们基层医生最需要的就是这种既能提升理论，又能在实际中操作的指导。”

在技术交流环节，专家们深入各科室进行床边教学和操作示演。程为平教授在针灸科演示了针对面神经麻痹的特效针法；张伟教授在儿科指导了儿童呼吸系统疾病的听诊技巧；李显筑教授则指导了内分泌常见病的规范化诊疗路径。

李显筑教授在活动总结时表示：“这次活动不仅是同学会组织的一次扶贫义诊活动，更是海归医学人才社会责任感的集中体现。我们将继续搭建平台，让更多留学归国医学专家深入基层，把国际先进医疗理念和技术与中医药优势相结合，切实提升基层医疗服务能力。”

在为期二天时间里，专家团累计接诊患者800余人次，举办学术讲座2场，培训基层医务人员150余人，完成疑难病例会诊30余例。



基层医疗支援湖南省娄底市第一人民医院活动



2025年11月29-30日，笹川同学会与湘雅二医院肝胆胰外科支援娄底市第一人民医院基层医疗支援活动隆重举行。笹川同学会、中南大学湘雅二医院肝胆胰外科的专家团在现场进行了学术授课、教学查房、疑难病例讨论和手术指导。来自娄底市第二人民医院，娄底市中心医院、娄星区人民医院以及哈尔滨市第二医院数十位基层医院医务工作者参加了此次学术活动。湘雅二医院众多专家齐聚一堂，将前沿的医疗理念与技术输送到娄底，为区域内肝胆外科技术骨干进行了一次高质量的“集体充电”。

娄底市第一人民医院杨莹院长致欢迎词，详细介绍了该院近年来在医院管理、学科建设、人才培养、新业务新技术开展等各个方面所取得的成效及飞速发展情况；并希望笹川同学会的专家们多深入娄底

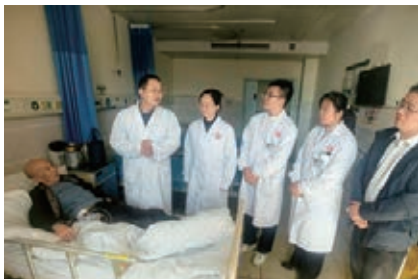
开展医疗援助活动，借助前沿理念技术，助力基层医疗单位高质量发展。

开幕式结束后，开始了医疗帮扶活动。首先进行了专业讲座。几位专家，围绕肝胆胰疾病诊疗的新理念、新技术和临床难点展开了深度分享。刘威教授、邹恒教授、杨鑫教授、周江蛟教授分别围绕《胆胰疾病内镜诊疗体系的建立》《医源性胆管损伤的防治和处理》《中晚期肝癌转化治疗策略和思考》以及《胰腺手术并发症的预防及处理》进行解读，讲座讲解深入浅出，通俗易懂。

除理论授课外，本次培训还设置了手术指导及手术观摩环节。专家们通过现场演示，直观地展示了ERCP微创手术的精准操作与团队配合，让学员“零距离”观摩学习顶尖的手术技法。在查房环节，与会人员踊跃提问，就日常工作中遇到的疑难病例与专家进行了深入交流和探讨，现场学术氛围浓厚热烈。大家都为基层医院开展ERCP的前景感到乐观，提问积极，气氛热烈。

授课结束后，李永国、周江蛟教授以及刘亚丽护士长，进入到娄底市第一人民医院肝胆外科进行了教学查房、疑难病例讨论。

本次培训，通过专家们的权威讲课和深度互动，成功地将国际前沿的学术理念与基层的实际需求紧密结合，对提升区域整体肝胆外科诊疗水平、推动分级诊疗制度落实具有重要意义。

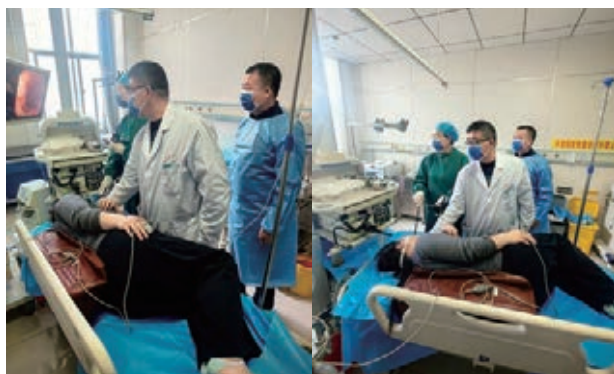


基层医疗支援陕西省吴起县人民医院活动

2025年11月25-26日，笹川同学会组织的定点医疗帮扶活动在陕西省吴起县人民医院进行。活动主题是“消化道肿瘤的早期预防和诊治”。西安交大二附院消化内科的张军教授（13期生）、尹晓然教授、普外科车向明教授（15期生）、空军986医院消化内科王钧教授（18期）、同学会李忠金秘书长等参加了本次活动。

本次活动分两部分，一是临床查房；二是学术讲座。车向明教授深入外科病区进行查房，针对消化道肿瘤相关病例进行临床带教；王钧主任前往胃镜室，结合设备实操传授消化道疾病内镜诊断技巧；张军教授与尹晓然教授则在消化内科开展疑难病例会诊，为复杂病情提供专业诊疗思路。4位教授全天共为100余名患者进行了临床诊治。

在学术交流环节，车向明教授以《胃癌手术消化道重建共识及我们的实践》为题，分享了胃癌手术的前沿理念与临床经验；王钧教授围绕《慢性便秘的长期管理》，结合基层诊疗实际，讲解了便秘的病因、诊断及规范治疗方案；尹晓然教授则聚焦《聚焦肿瘤患者全生命周期生活质量》，阐述了肿瘤治



疗中身心同治的重要性。最后，张军教授对本次学术交流进行总结，梳理核心知识点，解答现场提问，推动理论知识转化。

此次活动通过临床查房、实操指导、学术授课相结合的方式，既解决了基层诊疗中的实际问题，又传递了消化道肿瘤防治的先进理念。作为致力于促进医疗资源均衡的公益组织，笹川同学会的此次医疗帮扶活动，为吴起县人民医院搭建了优质的学术交流平台，对提升当地消化道疾病尤其是肿瘤的早诊早治能力具有重要意义。



东北地区学术交流会

笹川同学会东北地区分会会议于2025年6月14日在辽宁省大连市召开。

辽宁省、吉林省、黑龙江三省的共计43名笹川生出席了会议。日中医学协会办公室人员线上参会。

本次交流会由许顺（15期笹川生）副理事长主持，会议主题是“中医养生健康保险”，共有4名笹川同学会会员进行了演讲。

在中国，以中医为基础的养生和健康管理，不仅仅是预防生病，是调整身心平衡，与自然调和相生的综合性生活方式，是广受关注的主题。

■讲者

赵树华 吉林大学中日联谊医院教授（4期笹川生）



赵教授就中医养生学进行了演讲。

中医养生中最核心的经典就是《黄帝内经》，里面对养生有非常详细的论述，尤其强调一年四季怎么养生。

中医有一个核心理念就是“天人合一”。人体本身就是一个小自然，与大的自然界是一个有机整体。人的生理、健康、生病，都和自然界的变化紧密相关。

有人说“人不靠天”，我认为这个观点有待商榷。中医强调，人与自然息息相关，气候、季节、环境发生改变，人体健康就会受到影响。《黄帝内经》讲得很清楚，人以天地之气生，四时之法成。

人依靠天地之气滋养生命，顺应四季的规律成长、发展。人体和自然界是紧密相连、不可分割的。

李显筑 黑龙江省中西医结合研究所教授（8期笹川生）

【中医体质学说与治未病】

李教授主要针对“实现共建共享、全民健康”这点进行了演讲。

预防为主，中西医并重，这一条必须真正落到实处。为什么很多老百姓会觉得看病贵、看病难、看不起病？长期以来，我们的医疗资源更多集中在治病、抢救、晚期治疗上，投入大、成本高、医保压力也重。

而中医的优势，恰恰就在治未病、早预防、少生病、少住院，用更低的成本、更温和的方式，守住健康这个第一道防线。所以，现在国家强调中药独立发展、把产业做大，不是凭空提出来的，背后有很现实的逻辑：一方面是经济学问题——有限的医保资金，怎么花最划算、效率最高？

把钱花在预防、养生、治未病上，整体医疗成本会大幅下降，医保压力也会减轻。更重要的是，这直接关系到每一个人的健康。只有真正做到预防为主、中西医并重，让中医和西医各自发挥优势、互相配合，而不是一方主导、一方依附，才能从根本上缓解看病贵、看病难，真正实现全民健康、共建共享。只要我们把这一层道理真正悟透、落实到位，咱们国家整体的健康水平，一定大有希望。





王 宁 辽宁中医药大学附属第二医院教授（31 期笹川生）

【中医特色疗法在肿瘤疾病中应用】

中医特色疗法在肿瘤治疗中，不是替代现代医学，而是互补、协同、全程参与。

中医以扶正为本、减轻痛苦、提高生存质量、延长生命、降低复发为目标，真正体现以人为本、整体医学、治未病的中医优势，对构建全民健康、中西医并重的肿瘤防治体系，具有非常重要的现实意义。

王宁教授针对中医辨证论治为基础的给药、针

灸相结合的癌症综合治疗进行了经验分享，着重介绍了沿督脉经络施针的“督脉灸”。

“督脉灸”作为癌症辅助疗法广受关注。

金京春 延边大学附属医院教授（40 期笹川生）

【中西医结合治疗风湿免疫病】

针对治疗风湿免疫疾病，把“西医缓解症状”和“中医调理体质”相结合，作为能够取得全方位且持久治疗效果的治疗方法，同时详细介绍了在延边大学附属医院开展中西医结合治疗的具体事例。



北京及西北地区学术交流会

笹川医学奖学金同学会西北地区及北京市分会学术交流会于 2025 年 6 月 28 日（周六），在山西省太原市举行。来自山西、陕西、甘肃、青海、宁夏、新疆等省区及北京市的 51 名笹川同学参加了此次会议。日中医学协会办公室人员也通过在线参会，增进了交流。

本次学术交流会，由李国栋理事（16 期笹川生）主持，以“老年医学”为主题，进行了 3 场特邀演讲和 2 场笹川同学会会员演讲。

日中医学协会应笹川同学会的请求，特邀李嘉君女士（一般社团法人 M&W 国际人材教育机构理事）作为日方专家进行专题演讲。

此外，在会议开始时，主持人向与会人士报告，讲者李莉女士（44 期笹川生）于 2025 年 6 月

被选为美国护理科学院（American Academy of Nursing）院士。学院院士称号是授予在护理学教育、实践和研究领域取得卓越成就的领导者，是极高的荣誉。



■讲者

李嘉君 一般社团法人 M & W 国际人材教育机构
理事、株式会社 IKO 主任级照护支援专员
【日本照护保险制度的介绍】



对日本照护保险制度的起源、制度架构以及提供的服务内容进行了通俗易懂的讲解。同时，还详细介绍了日本医疗保险制度和社区综合照护体系，包括制度特点及实际运行情况。此外，通过具体案例介绍了日本国内提供的多样化照护服务，如含照护服务的收费养老院、日间照护服务、居家照护支援、福祉用品租赁等。

周红艳 西安交通大学第一附属医院副主任护理师
【全周期视角下老年人的健康管理】



周教授讲到，首先我们要明确，老年人的全周期健康管理，不是单一阶段的事，而是覆盖健康维持期、慢病防控期、疾病诊疗期、康复养护期、临终安宁期五个阶段，贯穿从“健康变老”到“安享晚年”的全过程，每一个阶段都有不同的重点，也都离不开中医养生与现代医学的协同发力。全周期视角下的老年人健康管理，核心就是从“治病为中心”转向“健康为中心”，把中医的治未病、整体观、天人合一，和现代医学的精准诊疗、慢病管理、急救康复深度融合，真正实现预防、治疗、康复、照护一体化。

钱 力 山西医科大学第一医院教授
【老年共病多重用药管理】

首先我们要明确什么是共病：老年人往往不只是患有一种疾病，而是高血压、糖尿病、冠心病、骨关节病、脑血管病、肿瘤等多种疾病同时存在，多种慢病叠加，这就是共病。随之而来的就是多重用药，即同时服用 5 种、10 种乃至更多种药物，每天一把药、一顿一把药的情况在老年群体里非常普



遍。所以，做好老年人共病的多重用药管理，核心不是“加药”，而是精简、优化、协同、个体化，坚持预防为主、中西医并重、以患者为中心的原则，从全周期、整体观的角度去系统管理。老年人共病的多重用药管理，是全周期老年健康管理的重要环节，核心是从“以病为中心、多药叠加”转向“以人为中心、精简优化、中西协同”。

李南方 新疆维吾尔自治区人民医院教授（7 期
笹川生）

【阻塞性睡眠呼吸暂停相关性高血压的共病问题及对策】



详细阐述了阻塞性睡眠呼吸暂停综合征的症状与病因，并解释了治疗延迟可能导致的并发症风险。作为应对策略包括引入 CPAP（持续气道正压通气疗法），以及改善生活习惯和药物治疗等措施。此外，阿司匹林的应用被介绍为新的治疗选择。

李 莉 山西医科大学第一医院主任护师（44 期笹川生）



【老龄化社会下无陪护病房的模式重建与质量提升】

进入深度老龄化社会，传统家属陪护模式难以为继，无陪护病房已成为必然趋势。它不是取消陪护，而是用专业照护替代家庭陪护，实现模式重建与质量提升。当前核心问题是：老年患者共病多、用药复杂、失能失智、安全风险高，家属陪护不专业、不连续、隐患大。李莉教授所在工作的山西医科大学被选为示范地区之一，李教授公布了关于无陪护病房新运营模式的举措。该尝试通过引入专业护理人员提供的护理体系，旨在保障患者安全、减轻家属的心理和身体负担，并提升医疗服务质量，报告了在构建区域医疗与护理一体化模式方面的实践成果。

西南地区学术交流会



笹川医学奖学金同学会西南分会学术交流会于2025年7月5日，在重庆市合川华地王朝大酒店举行，来自重庆市、四川省、云南省、贵州省的笹川研究员等50人参加了此次活动。日中医学协会办公室人员也在线参加，增进了交流。

本次学术交流会在笹川同学会熊宇常务理事的主持下，以“智慧医疗与主动健康”为主题，4名笹川同学会会员进行了演讲。

■ 演讲者

李 松 昆明医科大学教授（8期笹川生）

【人工智能（AI）在医学中的应用与发展】



AI正以前所未有的速度，深度融入医疗健康的方方面面，从疾病诊断、治疗方案制定，到新药研发、日常健康管理，AI的身影无处不在。首先，在医学影像诊断方面。其次，在临床决策支持上第三，

在药物研发领域。第四，在全周期健康管理方面。AI不是要替代医生，而是要让医生的工作更高效、更精准，让医疗服务更普惠、更智能。它将深刻改变我们的健康管理模式，为实现全民健康、应对老龄化社会挑战，提供强大的技术支撑。

胡秀英 四川大学华西医院教授（18期笹川生）

【优雅地与时间共舞——延缓衰老的生活方式智慧】



每个人都在走向岁月深处，衰老本是自然规律，但如何活得从容、活得有质量、活得有尊严，却是一门值得终身修习的智慧，首先，优雅抗衰，始于规律的作息，与昼夜同频。

其次，在于清淡均衡的饮食，守护脾胃之本。第三，优雅抗衰，贵在适度而动，动静相宜。第四，优雅抗衰，核心是平和的情志，与自己和解。最后，优雅抗衰，是提前守护，预防为先，全周期呵护。用一种温和而坚定的生活方式，优雅地与时间共舞。

傅 荣 四川省人民医院教授（28期笹川生）

【眼部的整形外科】



眼部整形外科是美学与医学、精细技术与人文关怀高度结合的学科。它既可以重塑容貌、提升自信，更能修复创伤、矫正畸形、保护视功能。未来，随着技术不断进步，它会更加精准、微创、安全、

个性化，真正做到让每一双眼睛，既健康明亮，又优雅有神。讲者介绍了四川省人民医院开展的双眼皮成形术、眼睑下垂矫正、眼袋去除、内眦开大等美容外科手术的病例。

熊 宇 陆军军医大学西南医院副教授（34期笹川生）

【数字化医学技术在口腔临床中的应用】



随着科技快速发展，数字化已经全面进入口腔医学领域，从诊断、设计、治疗到修复、正畸、种植、手术，几乎覆盖全流程。数字化技术的核心价值，就是让口腔治疗更精准、更高效、更舒适、更可预测，

真正实现从传统经验化，向现代精准化、智能化、个性化的转变。熊宇教授就口腔医学发展中尤为重要的材料与加工成型技术，通过最新口腔修复案例进行了详细介绍。特别是数字技术的应用取得显著进展，包括CAD/CAM技术在修复体设计与制作中的应用、口腔内扫描仪实现的数字化取模，以及3D打印技术的应用等。

华北、华中、华南、安徽、山东、江西地区学术交流会



笹川医学奖学金同学会华北、华中、华南、安徽、山东、江西地区学术交流会于2025年10月18日(周六),在湖北省武汉市举行,约80名笹川研究员参与活动。

福岛县立医科大学理事长特别助理兼副校长山下俊一先生作为日方主旨演讲嘉宾出席。日本国驻华大使馆的榊井千裕一秘、日本财团佐藤英夫常务理事、福田英夫部长等2人亲临现场。日中医学协会事务局也通过线上方式参会。

在学术交流会上,笹川同学会的赵群理事长致开幕辞后,日中医学协会冈田光子事务局长以及作为华中地区代表的武汉大学人民医院刘修恒教授(第9期研究员)先后致辞。随后,日本国驻华大使馆榊井千裕一秘致贺辞,日本财团佐藤英夫常务理事代读了尾形武寿会长的贺词。



(开幕词) 赵群 同学会理事长(10期笹川生)



(华东地区代表致辞) 刘修恒 教授(9期笹川生)



(祝辞) 榊井千裕 日本国驻华大使馆一秘



(祝辞) 佐藤英夫 日本财团常务理事(代读尾形日本财团会长贺词)

随后,在笹川同学会许顺副理事长的主持下,以“肿瘤的综合诊疗与核医学”为主题,举行了主题演讲及四名笹川研究员演讲。

主题演讲

山下俊一 福岛县立医科大学理事长特别助理 / 副校长

【福岛复兴与核医学治疗的新挑战】



东日本大地震发生后,研究团队立即进入福岛县,开展了一系列维护县民健康的研究活动。此外,还介绍了福岛县立医科大学尖端临床研究中心的举措,以及“福岛放射线创新基地”的筹建计划。山下俊

一教授为科学的奉献精神赢得了在场所有听众的热烈掌声。

笹川研究员演讲



胡龙飞 广州麓鹏制药有限公司副总裁(19期笹川生)

【全球首个第四代共价兼非共价 BTKi 在血液肿瘤治疗中的临床开发和商业化】

介绍了最新 BTK 抑制剂的临床开发详情及其商品化后的展望。

贾立中 安徽省芜湖市第一人民医院影像科教授(29期笹川生)



【肺微小结节的影像筛查和低级别结节微创围手术期的护理】

从影像诊断专家的视角出发,介绍了用于判断肺部小结节特征的影像诊断技术,以及在微创手术

中周术期护理的相关内容。贾立中教授用最简单、最实用、最容易理解的话来讲，他说：微小结节不可怕，可怕的是不筛查、不随访、过度焦虑或者不当回事。低剂量CT是早发现的武器，微创手术是安全的治疗，科学护理是快速康复的保障。

孟召伟 天津医科大学总医院核医学教授（30期笹川生）

【低中危甲状腺癌的核素治疗】



介绍了世界各国核医学治疗的最新进展。低中危甲状腺癌不可怕，核素治疗也不是“洪水猛兽”。它是精准的术后清灶手段、安全的复发防护屏障，只要遵循“科学评估、精准施治、长期随访”的原则，

绝大多数患者都能实现临床治愈，完全不影响正常生活和寿命。

胡秀英 四川大学华西医院教授（18期笹川生）

【身心同治的肿瘤照护：从症状控制到生命意义重建】

介绍了在全面把握患者个体差异的基础上，不



仅要考虑其教育背景和文化背景等因素，更要认识到实施手术之外全方位护理的重要性。身心同治的肿瘤照护。过去我们谈肿瘤，更多关注的是怎么切、怎么治、怎么把病灶消除；但今天我们越来越明白，

真正好的肿瘤照护，不只是控制症状、延长生命，更要重建尊严、重建希望、重建生命的意义。肿瘤照护，从来不是单一的治疗，而是照护一个完整的人。控制症状，是守护身体；安抚心灵，是守护情绪；重建意义，是守护生命的光。身安心安，则病易安；心有光，则路不远。



学术交流会结束后举办了信息交流会，为参与者提供了进一步加深交流与增进友谊的宝贵机会。

华东地区学术交流会



笹川医学奖学金同学会华东地区学术交流会于2025年11月15日在福建省武夷山市圆满召开，同学会会员约70名出席了会议。日中医学协会办公室职员线上参会，与研究员们加深了交流。

在学术交流会开幕式上，日中医学协会的冈田光子局长、福建地区学员代表福建省药品不良反应观测中心李宗先生（12期笹川生）、同学会华东分

会会长，江苏省中医院孙伟教授（18期笹川生）先后致辞。

同学会李忠金秘书长担任主持，交流会的主题是“肿瘤防治”，共有6名同学进行了演讲。

◆演讲◆

贾立中 安徽省芜湖市第一人民医院影像科教授（29期笹川生）

【肺结节的筛查诊断与临床管理要点】

贾教授主要从肺结节的定义、超早期肺癌的概念、各种结节影像详细介绍、筛查模式等进行了解读。低剂量CT是筛查金标准，精准评估是诊断关键，分层管理是临床核心，规范随访是安全保障。肺结



节不可怕，可怕的是不进行筛查、不开展随访、过度焦虑或不当回事。只要做到早筛查、早判断、科学管理、规范处理，就能把风险挡在早期，把健康握在手中。

守护肺部健康，从科学认识肺结节开始。

武 巍 百力司康生物医药有限公司教授（13期笹川生）



【抗肿瘤药物新锐 ADC】

武教授主要从 ADC 概述、发展史、作用机理、已上市的药物、展望与未来等 5 各方面进行了详细说明与介绍。

李 旭 福建医科大学附属第一医院胸外科教授（22期笹川生）



【食管癌治疗新理念与新框架】

李教授从肿瘤研究的框架、食管癌筛查与早期发现、目前食管癌治疗模式等进行了详细介绍。我们已经形成了一套更精准、更微创、更综合、更以人

为本的治疗新理念与新框架，让更多患者能够活得更长、活得更好、痛苦更少。早筛早治是基础，MDT 个体化是核心，微创功能保护是关键，免疫与综合治疗是突破，身心同治、全程管理是保障。

钱 俊 浙江省肿瘤医院大肠外科教授（26期笹川生）



【结直肠肿瘤早筛早查和防治】

钱教授主要从“为什么提倡结直肠癌早期筛查与早期防治”、“哪些人需要进行早期筛查”、“用什么方式与技术筛查”、“结

直肠癌如何预防”的 4 个方面，以自问自答的形式进行了详细说明。

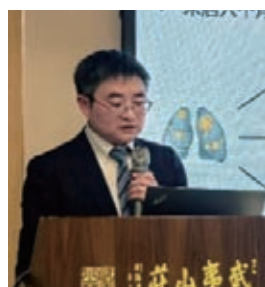
孙海晨 南京军区南京总医院急诊医学科教授（26期笹川生）



【12 年的抗肺癌体验】

孙教授讲述了自身 12 年抗肺癌经历。从最初发现到药物分代治疗，再到现在化疗，都做了详细说明。与肺癌相伴的 12 年不仅是与疾病对抗的煎熬，而是一场关于生命、健康、心态与科学管理的修行。孙海晨教授用最真实的感受，告诉每一位正在面对肿瘤的朋友：肺癌不可怕，带瘤也能好好活，长期生存不是奇迹，而是科学与心态共同的结果。

孙长博 上海市肺科医院胸外科主治医师（38、40、44 期笹川生）



【聚焦终末期肺病：肺移植全流程管理的策略优化与技术创新】

孙医生主要从肺移植介绍、供体管理、受体选择与优化管理、术中管理与并发症防治、肺移植治疗终末期肺病合并肺癌、肺移植交流与合作等 6 个方面做了详细说明。

演讲结束后，召开了信息交流会，为加深参加人员之间的交流提供了有意义的机会。



中日大健康论坛

由笹川医学奖学金同学会与日中医学协会联合主办的第十届“中日大健康论坛”于2026年3月7日（周六）在北京市长富宫饭店圆满召开。第47期笹川医学奖学金全体学员、往届共同研究型学员、同学会常务理事等参加了会议。

中日医学高峰论坛聚焦中国医疗卫生政策这一重点课题，中日两国专家演讲并交换意见，以期解决中国所面临的课题，本次召开的是第十届中日大健康论坛。

【中日医学高峰论坛】

第一届 生活习惯病的现状与对策（2018年7月于新疆维吾尔自治区乌鲁木齐市）

第二届 癌症诊断治疗（2018年8月于辽宁省沈阳市）

第三届 肿瘤防治对策（2019年9月于辽宁省沈阳市）

第四届 中日老龄化对策（2019年11月于四川省成都市）

第五届 中医药在医疗改革中的作用（2020年10月于北京市）

第六届 中日大健康论坛（2021年10月于北京市）

第七届 中日大健康论坛（2022年08月于北京市）

第八届 中日大健康论坛（2023年12月于北京市）

第九届 中日大健康论坛（2024年12月于北京市）

第十届 中日大健康论坛（2026年03月于北京市）

本届论坛的主题是“身心健康”，共邀请4位专家进行演讲。



◆演讲◆（按会议顺序）

龙迪 教授 中国科学院心理研究所



【正念生活：转化我们痛苦的文化资源】

正念生活：不是清空大脑、不是佛系躺平，而是清醒地活在每一刻：念头来了看见它、情绪来了接纳它、做事时心在事上。

冉玉平 教授 四川大学华西医院 皮肤性病科
（7期笹川生）



【脱发：全年龄段人群的烦恼及临床对策】

脱发，早已不是中老年人的专属困扰，而是横跨青少年、青年、中年、老年全年龄段的普遍难题。它不仅是一种生理现象，更成为缠绕无数人的心理

枷锁，从外貌焦虑到自我否定，从生活困扰到社交自卑，脱发带来的烦恼早已远超毛发脱落本身。而在医学不断发展的今天，科学的临床对策，为脱发人群拨开迷雾，提供了切实可行的改善路径。

李显筑 教授 黑龙江省中西医结合研究所（8期笹川生）

【新时期大健康产业机遇】

建立生活方式病康复训练基地，是改变不良生



活习惯，促进身心健康的有效方法。慢病康复训练基地直面高血糖、高血压、高血脂、高血粘、高尿酸、过敏性疾病、肿瘤等特定生活方式病，养成健康生活方式、评估学员健康状况、干预学员健康失衡、

逆转学员慢性疾病。慢病康复训练基地包括由专业医生健康评估、健康干预；在康复基地饮食指导、身体锻炼、心理调节，科学运动，养成健康生活方式。

张春东 教授 中国医科大学附属第四医院 肿瘤外科（40期笹川生）



【大肠癌临床数据库的构建与应用】

大肠癌临床数据库的构建是一项“标准化为基础、质控为核心、应用为导向”的系统工程。从单个中心精细化管理到全国性多中心协

作，从数据存储到AI赋能的临床决策，数据库已成为推动大肠癌诊疗从“经验驱动”向“数据驱动”转型的关键。未来，随着标准化体系的完善、AI技术的渗透与跨域共享机制的建立，大肠癌临床数据库将进一步释放数据价值，为实现精准诊疗、提升患者生存率提供坚实支撑。

笹川医学奖学金项目第46期 ＜攻读博士学位型·博士后研究型＞研究员认定典礼



第46期研究员（攻读博士学位型·博士后研究型）认定典礼于2025年4月16日（周三），在日本财团大厦大会议室以线上线下相结合的方式圆满召开。本次典礼上，中国驻日本大使馆、日本财团、日中医学协会、笹川保健财团、笹川医学奖学金同学会、第46期研究员和指导老师、第45期研究员等共120名与会出席。当天典礼盛况也在线实时播放。



（祝辞）尾形武寿 日本财团理事长

第46期＜攻读博士学位型＞研究员认定式

＜攻读博士学位型＞是资助中国医疗相关人士攻读日本博士学位的项目，每年最多资助10名，提供学费及在日生活费及住宿费。

作为研究员的义务，要求向研究员提供3年的奖学金资助后2年内取得博士学位，并以第一作者发表影响因子3以上或同等水平的论文。

第46期＜攻读博士学位型＞研究员名单（10名）

日中医学协会跡见裕理事长为10名研究员颁发了认定书。

随后，研究员为取得学位表决心，并获得了指导教官亲切的鼓励的话语。



（开幕宣言）
小川秀兴 日中医学协会会长



（本项目实施单位致辞）
跡见裕 日中医学协会理事长



（本项目实施单位致辞）
赵群 笹川医学奖学金同学会理事长



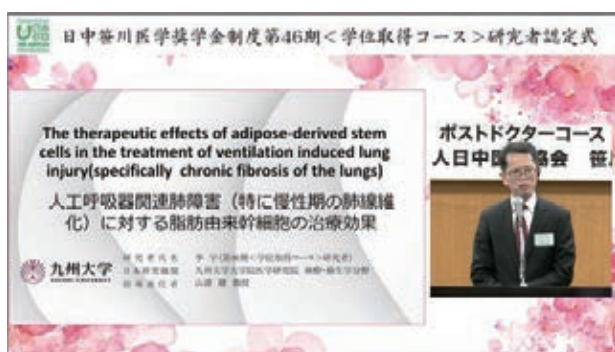
（祝辞）
祝学华 中华人民共和国驻日本国大使馆科学技术部参赞



（颁发认定书）跡见裕 日中医学协会理事长



(研究员表决心)



(指导教官鼓励的话语)

第 46 期的研究员们，请向着目标迈进，多与日本人交流，建立友谊，度过美好的留学生活。
请指导老师多多关照。

第 46 期<博士后研究型>研究员认定式

< 博士后研究型 > 是以资助中国的博士后研究员在日本开展研究活动为目的，于 2024 年新开的类型。

每年最多 10 名，最长资助 2 年，要求奖学金获得者用英文将在日本的研究成果发表在著名的专业学术杂志上。

第 46 期<博士后研究型>研究员名单（7 名）

日中医学协会跡見裕理事长为 7 名研究员颁发了认定书。

随后，研究员为取得研究成果表决心，并获得了指导教官亲切的鼓励的话语。



(颁发认定书) 跡見 裕 日中医学协会理事长



(研究员表决心)



(指导教官鼓励的话语)

第 45 期研究员第 2 年以后的资助

< 攻读学位型 > 和 < 博士后研究型 > 研究员在资助 1 年结束时，须接受本项目管辖 日中医学（日中医学协会－日本财团）合作委员会的评审。

林崎委员长就 2025 年 3 月对第 45 期 < 攻读学位型 > 研究员 10 名、第 45 期 < 博士后研究型 > 研究者 9 名进行中期评审，最后全委员一致通过，对 19 名研究员继续提供资助的结果进行了报告。



林崎良英委员长

日中医学奨励賞制度第45期研究者 ＜ポスドクターコース＞ 2年度次助成金授与者【9名】 【助成期間：2025年4月～2026年3月】	日中医学奨励賞制度第45期研究者 ＜学位取得コース＞ 2年度・3年度次助成金授与者【10名】 【助成期間：2025年4月～2027年3月】
東内科（内科） 福岡大学 国際看護ケア・エシカルマネジメント学 薬（薬） 千葉大学 高齢社会医療薬理学 理（理） 福岡大学 医療薬理学 理（理） 岡山大学 がん研究センター・薬理部 薬理内務 理（理） 京都大学 生命理工学 理（理） 京都大学 薬理センター 主幹（理） 大阪大学 化学物質の環境健康影響研究部門 主幹（理） 京都大学 生命理工学 主幹（理） 京都大学 薬理学系	理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系 理（理） 京都大学 薬理学系

随后，林崎委员长也就＜攻读博士学位型＞截止到2024年度为止共有38名（名簿）研究员取得了博士学位，以及对24年度取得博士学位的研究员授予日中医学协会与笹川同学会联名表彰状进行了汇报。



会场盛況

认定典礼结束后，召开了欢迎晚宴。



（出席晚宴人士合影）

中日笹川医学奖学金项目第46期 ＜共同研究型＞研究员交流会



中日笹川医学奖学金共同研究型研究员交流会于2025年9月19日在日本财团大会议室圆满召开。中国驻日本国大使馆、日本财团、日中医学协会领导、笹川保健财团、笹川医学奖学金同学会、第45期和46期攻读博士学位型/博士后型研究员等，共75名参会。本次研究员交流会也在线上进行了实时播放。



（祝辞）尾形武寿 日本财团会长

共同研究型是以深化共同研究内容，开启新的研究思路为目的，资助中国研究员在日本停留最多6个月并与日方共同研究员开展共同研究。

本次研究员交流会上，中日双方研究员就共同研究的研究背景、流程目标、最终目标等用英语进行发言，并接受在场听众的热烈问答。大会主席林崎良英先生谈到：“与几年前相比，演讲水平确实有了显著提升。其中甚至能感受到世界顶尖水准的论述。自去年起，我注意到这里介绍的合作项目之间呈现出更强的关联性。中日双方处于平等地位，这无疑是一个积极的信号。”



（开会宣言）
小川 秀兴 日中医学协会会长



（本项目实施团体致辞）
跡见 裕 日中医学协会理事长



（本项目实施团体致辞）
赵 群 笹川医学奖学金进修
生同学会理事长



（祝辞）
施 泳 中华人民共和国驻日
本国大使馆公使



（致辞·主席）林崎良英 本项目管辖委员会委员长（日中医学协会理事）

发言 -1

Clinical outcomes of different surgical approaches of thymectomy for myasthenia gravis

王 帅 复旦大学附属中山医院胸外科 主治医师

丁 建勇 复旦大学附属中山医院胸外科 主任医师

铃木 健司 顺天堂大学大学院医学研究科呼吸器外科学讲座 主任教授



发言 -2

Exploring the Feasibility of Preoperative Tumor-Bed Boost, Oncoplastic Surgery, and Adjuvant Radiotherapy Schedule in Early-Stage Breast Cancer: A Phase II Clinical Trial

孔 祥溢 中国医学科学院肿瘤医院乳腺外科 副主任医师

张 文祥 中国医学科学院肿瘤医院乳腺外科 主治医师

陆 叶 中国医学科学院肿瘤医院乳腺外科 医师

米盛 勸 国立癌症研究中心中央病院乳腺 / 肿瘤内科科长



发言 -3

In Vitro Construction of NASH Model: Mimicking Pathological Collagen Remodeling

骆 莹 天津市第三中心医院肝胆疾病研究所 副研究员

松崎 典弥 大阪大学大学院工学研究科应用化学专业有机工业化学领域 教授



发言-4

Identification of colorectal cancer risk factors using Mendelian randomization and development of risk prediction models

陈宏达 中国医学科学院北京协和医院转化医学国家重大科技基础设施 研究员
张越伦 中国医学科学院北京协和医院转化医学国家重大科技基础设施 助理研究员
骆晨雨 中国医学科学院北京协和医院转化医学国家重大科技基础设施 博士研究生
岩崎基 国立癌症研究中心癌症对策研究所疫学研究部 部长



发言-5

Asymmetric porous nZnO/P34HB composite membrane with antibacterial property for alveolar bone regeneration

刘英 川北医学院口腔医学院 教授
刘为 川北医学院口腔医学院 讲师
唐婉容 川北医学院口腔医学院 副教授
洪光 东北大学大学院牙学研究科附属歯学 Innovation liaison center 教授
马奥博 东北大学大学院牙学研究科附属歯学 Innovation liaison center 助教



发言-6

A Multigene Mutation Signature for Prognostic Stratification in Tongue Oral Squamous Cell Carcinoma

李卓 西安医学院第一附属医院检验科 教授 / 主任技师
周建 西安医学院第一附属医院检验科 讲师 / 副主任技师
张娜 西安医学院第一附属医院检验科 检验技师
后藤明辉 秋田大学大学院医学系研究科医学专业病态制御医学系器官病态学讲座教授
铃木兼一郎 秋田大学大学院医学系研究科医学专业病态制御医学系器官病态学讲座医师



发言 -7

Diagnostic performance of EUS, CE and ME in predicting the invasion depth of early gastric cancer: a comparative study

戴 菲 西安交通大学第二附属医院消化内科 教授 / 主任医师
秦 斌 西安交通大学第二附属医院消化内科 副教授
全 晓静 西安交通大学第二附属医院消化内科 助理研究员
入泽 篤志 独协医科大学消化器内科 主任教授
乡田 宪一 独协医科大学消化器内科 教授



发言 -8

The role of NK-B cell interaction in the immunopathogenesis of aplastic anemia under inflammatory conditions

刘 春燕 天津医科大学总医院血液内科 主任医师
闫 莉 天津医科大学总医院血液内科 主治医师
细川 晃平 金沢大学附属病院血液内科 副教授



发言 -9

The Role and Mechanisms of 3D Spheroid Culture in Enhancing the Potency of Dental Stem Cells for Pulp-Dentin Complex Regeneration

周 建 首都医科大学附属北京口腔医院国际医疗部 教授 / 主任医师
 郜 康 首都医科大学附属北京口腔医院国际医疗部 博士研究生
 张 天翼 首都医科大学附属北京口腔医院国际医疗部 博士研究生
 各務 秀明 爱知医科大学医学部牙科口腔外科学讲座 特任教授



发言 -10

TROP2 Expression and Its Association with Clinicopathological Features and Biomarkers in Gastric and GEJ Adenocarcinomas

仝 营营 首都医科大学附属北京潞河医院肿瘤中心 主治医师
 设乐 紘平 国立癌症研究中心东病院消化管内科 科长
 中山 严马 国立癌症研究中心东病院消化管内科 医师



我们期待活跃于中国医学、牙科学、药学、护理学领域的专家们能够继续与日方研究员开展共同研究，并得到长足发展，将成果发表在高水平国际期刊上。



会场出席合影

笹川医学奖学金项目第47期研究员日语培训

第47期笹川医学奖学金研究员日语培训工作从2025年11月7日开始,于2026年2月6日顺利结束。共有18名项目学员参加了日语培训,其中博士与博士后研究员12人、共同研究员6人。

培训教材选用《大家日语初级1与2》及其配套教材(听力、阅读、写作)。补充材料为《MARUGOTO 日本的语言与文化初中级》、NHK新闻等视频资料与教材。通过为期三个月的日语强化培训,参训学员初步掌握了日语的听说读写能力,为今后在日本的生活与学习奠定了基础。

培训采用线上与线下相结合方式进行。通过该种现代教育手段,大大提高了教学效率。借助《大家日语》的主教材与听说、读写单项训练教材,参训人员掌握了初中级日语所要求的听说读写等语言应用技巧,增强其运用日语在日本生活的信心。也通过补充的视频教材,从中对比中日两国文化的

不同,使其更加深刻地理解日本文化。

在教学过程中,主要培养参训人员从含有生词的听力素材中,抓住重点信息与推测大意的听力策略。在听力训练的同时,还重视内容的“输出”,即说日语与写日语。听力理解的内容只有通过口头或书面形式表达出来才能得以巩固,加深印象,达到应用的目的。写日语,题目以介绍自己的一系列内容为主,比如「自我介绍」、「每天生活」、「关于休闲」等。说日语,在课堂实践练习的同时,还通过“口头发表”的形式,让学员展示学习成果。口头发表之前,以小组的形式查找资料确定发表内容;发表时小组代表发言,围绕赴日研究计划主题展开,包括研究题目、研究对象、研究方法以及预期研究成果等内容;发表之后的问答环节,更好地促进了对发表内容的深度理解。



模拟练习用日语交换名片



课堂对话练习



课堂对话练习



多媒体教室授课风景



面试考试



笔试考试

笹川医学奖学金项目（第40—46期） ＜共同研究型＞研究员成果汇报会



笹川医学奖学金同学会于2026年3月7日上午在长富宫饭店举办了笹川医学奖学金项目（第40-46期）共同研究型研究员成果汇报会，笹川医学奖学金项目第47期全体学员以及笹川同学会全体常务理事出席了会议。

笹川同学会赵群理事长、国家卫生健康委国际合作司亚太处余志文处长先后致辞，会议由同学会李忠金秘书长主持。

项目第40-46期的九名研究员们分别介绍了各自在日期间开展的研究内容、收获以及与日方团队开展合作研究的进展情况，双方研究者已共享科研数据与资源、建立了良好合作模式。九名学员还分别介绍了各自回国后的科研成果等。同学们畅谈了自己的感受，特别赞赏日方科研人员的严谨细致、精益求精、专注深耕的治学态度。

学员们还纷纷表示，本次共同研究不是终点，而是国际合作的新起点，今后会将本次收获转化为工作动力，踏实钻研、持续创新，为国家科研事业发展与国际交流合作贡献自己的力量。



赵群（10期笹川生）笹川同学会 理事长



余志文 国家卫健委 亚太处 处长



王帅（46期笹川生）复旦大学附属中山医院 胸外科 主治医师



李卓（46期笹川生）西安医学院第一附属医院 检验科 教授



周建（46期笹川生）首都医科大学附属北京口腔医院 特诊特需科 教授



李莉（44期笹川生）山西医科大学第一医院 护理部 副主任



芦起（41期笹川生）重庆医科大学附属儿童医院 新生儿诊疗中心 教授



刘碧天（45期笹川生）中国医科大学附属盛京医院 泌尿外科 副教授



蒋培都（45期笹川生）电子科技大学电子学附属医院 四川省人民医院 药学部 教授

笹川医学奖学金项目第47期研究员出国前说明会

根据国家卫生健康委关于举办中日笹川医学奖学金项目第47期学员出国前说明会的要求，项目47期全体学员于2026年3月6日下午在国家卫生健康委一号办公楼二号会议室参加了由国家卫生健康委国际合作司主办的出国前说明会。

说明会结束后，全体学员立即前往长富宫酒店，参加了同学会举办的第47期笹川医学奖学金获得者成团仪式。在成团式仪式上，笹川医学奖学金项目的前辈们向47期学员介绍了自己的留学期间的经验和体会，特别强调初到异国他乡文化冲击不可避免，建议学员们赴日后尽可能主动参与社交活动，广交各国朋友，努力融入当地文化。

在学习和研究方面，前辈们还提到，国外大学比较注重自主学习与团队合作。学员们进入日本的大学、医院、研究所等机构时，要学会利用图书馆、学术辅导中心等公共资源；同时要合理安排时间，平衡学习和生活，保持身心健康。



冉玉平 教授（7期笹川生）四川大学华西医院 皮肤性病科

47期学员们听取了前辈们的介绍后，依次登台介绍了自身专业及未来期许。希望能将专业知识充分应用到在日本的学习工作中，提升各自的水平，在跨文化环境里锻炼自身适应力与沟通协作能力，拓展国际视野，早日学成报效国家。



	国内研修	培训单位
1	呼吸疾病常见病诊治培训班	中日友好医院
2	内镜实用技能培训	中国医大附属盛京医院
3	阻塞性睡眠呼吸暂停相关性高血压培训班	新疆维吾尔自治区人民医院
4	妇产科实用技术标准培训班	北京协和医院
5	乡村医生全科培训	昆明医科大学
6	腹腔镜实用技能培训	哈尔滨市第一医院
	定点医疗扶贫	培训单位
1	中医诊断治疗	黑龙江省中医药科学院
2	胃癌的早期诊断和早期治疗	西安交大第二附属医院
3	腹腔镜技能指导	湘雅二院
	中长期培训	培训单位
1	中长期培训（半年 2 名）	黑龙江省中医药科学院
2	中长期培训（半年 1 名）	四川大学华西医院
3	中长期培训（半年 1 名）	吉林大学附属口腔医院
4	中长期培训（半年 2 名）	新疆维吾尔自治区人民医院
	地方分会（题目）	参会地区
1	全生命周期的健康管理	华北地区分会
2	全生命周期的健康管理	东北地区分会
3	全生命周期的健康管理	华东地区分会
4	慢病管理	华南地区
5	与慢病共生存	西北地区分会
6	环境卫生与健康	西南地区分会
	特别会议	
1	第 48 期学员出国前说明会	
2	中日大健康论坛（分诊与 DRG 制度的现状与问题）	
3	第 40-47 期共同研究员成果汇报会	
	第 48 期项目学员	
1	第 48 期博士 / 博士后面试及共同研究者资料评审	
2	第 48 期语言培训	

笹川医学奖学金归国者同学会

北京西直门北大街联慧路101西晴公寓C座0248室

电话 010-62256266 15901208067 传真 010-62256266

网址 <https://www.sskw.net> 邮编 100082

Email sc1000@vip.163.com

公益財団法人日中医学協会
TEL 03-5829-9123
FAX 03-3866-9080
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-4-3
住 泉 K M ビ ル 6 階
URL : <https://www.jpcnma.or.jp/>